

部課別掲載事業一覧

| 部名称 | 担当課名称 | 事業番号 | 事業名称 | 頁 |
|-----|----------|--------|--------------------|----|
| 総務部 | 総務課 | 022136 | 総務課管理事務 | 1 |
| | | 022137 | 文書管理事務 | 2 |
| | | 022501 | 統計調査事務 | 3 |
| | | 023106 | 庁舎等管理事務 | 4 |
| | | 024106 | 庁舎整備事業 | 5 |
| | 新庁舎整備推進室 | 024115 | 新庁舎建設事業 | 6 |
| | 行政管理課 | 022143 | 市民災害賠償補償保険事務 | 7 |
| | | 022144 | 車両管理事務 | 8 |
| | | 022179 | 行政管理事務 | 9 |
| | | 022186 | 市有財産管理事務 | 10 |
| | | 462116 | 財産区財産管理事業 | 11 |
| | 財政課 | 022156 | 財政管理事務 | 12 |
| | | 029111 | 財政調整基金積立金 | 13 |
| | | 029112 | 公共施設整備基金積立金 | 14 |
| | | 049302 | 水道事業会計繰出金(特別減免分等) | 15 |
| | | 079421 | 下水道事業会計繰出金 | 16 |
| | | 119101 | 地方債元金償還事務 | 17 |
| | | 119102 | 地方債等利子償還事務 | 18 |
| | | 129101 | 予備費 | 19 |
| | 課税課 | 022164 | 定額減税補足給付金事業(調整給付分) | 20 |
| | | 022201 | 課税管理事務 | 21 |
| | | 022202 | 市民税課税事務 | 22 |
| | | 022203 | 固定資産税・都市計画税課税事務 | 23 |
| | 収納管理課 | 022206 | 市税徴収事務 | 24 |
| | | 022209 | 債権管理事務 | 25 |
| | 契約検査課 | 022176 | 契約検査事務 | 26 |
| | | 022177 | 物品購入契約事務 | 27 |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月25日 |
| 部署名 | 総務部 総務課 |
| 評価者 | 中谷 明彦 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|---------|
| 事業番号 | 022136 | 事業名称 | 総務課管理事務 |
|------|--------|------|---------|

| | | |
|------|-----------------------------|-----------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な行政運営の推進 | (経営的施策1) 効率的・効果的な行政運営 |
|------|-----------------------------|-----------------------|

| | | | |
|------|-----------|------|----------------|
| 予算科目 | (款) 総務費 | 事業種別 | (大事業) 総務費 |
| | (項) 総務管理費 | | (中事業) 総務管理運営事業 |
| | (目) 一般管理費 | | (小事業) 総務課管理事務 |

| | | | | | |
|----------------|--|--------|--------|-------|-------|
| 事業目的 | 課の庶務を充実させるとともに、宿日直業務を実施することにより市民サービスの向上を図る。また、弁護士事務所と契約を結ぶことにより、法的な問題の解決を図る。 | (現年) | | | |
| | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| 事業費 (単位:千円) | 当初予算 | 24,623 | 26,699 | | |
| | 決算 | 24,448 | | | |

| | |
|------|--|
| 事業概要 | 総務課の一般業務管理事務で、宿日直業務の運用や、携帯電話を含む庁内電話回線の運用、委託顧問弁護士との相談業務を主に行う。 |
|------|--|

■実施(DO)

| | | | | | | | | |
|-------|-----------------------------------|---|----|---------------|-------|-------|-------|-------|
| 成果指標1 | 課の一般的な各業務を管理する事務のため、成果指標を設定するのは困難 | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | | (令和8年度目標値 →) | | | | |
| 成果指標2 | | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | | (令和8年度目標値 →) | | | | |
| 活動指標1 | 宿日直窓口対応件数 | → | 単位 | 予定 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| | | | | 実績 | 864 | | | |
| 活動指標2 | 弁護士相談件数 | → | 単位 | 予定 | 37 | 37 | 37 | 24 |
| | | | | 実績 | 16 | | | |
| 活動指標3 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標4 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|---|--|
| 必要性 | 公共性 | B A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となることが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある | 宿日直業務や庁内電話回線の運用、委託顧問弁護士との相談業務を実施する事業であり、行政サービスの提供には欠かせないものである。 |
| | 市民ニーズ | C A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない | 主には市庁舎の業務を管理するための内部管理事務であるため、市民ニーズに左右されるものではない。 |
| 有効性 | 制度設計 | A A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある | 宿日直業務や庁内電話回線の運用、委託顧問弁護士との相談業務など、行政サービスの提供には欠かせないものであり、効果的な制度設計となっている。 |
| | 達成度 | D A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない | 内部管理事務のため指標設定になじまない。 |
| 公平性 | 受益者負担 | A A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない | 宿日直業務の運用にあたっては、水道事業部局より「富田林市役所当直業務に関する協定書」の規定に基づき、宿日直職員賃金分の30%を徴収しており、適切な割合が負担されている。 |
| 効率性 | 事業手法 | B A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない | 宿日直業務は、新庁舎での業務開始時期に委託検討の余地があるが、夜間の埋火葬許可証の発行業務ができなくなるなどの課題があるため、関係課と十分に協議する必要がある。 |
| | コスト | C A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない | 新庁舎での業務開始時期に宿日直業務を現在の直営から委託に移行した場合、人件費を含めた委託経費を削減することは難しいため、コスト削減を行うことは難しい。 |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|---|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| B | ①宿日直業務については、近年の行政ニーズの多様化により業務内容も多岐に渡るが、経験豊富な会計年度任用職員を中心に4名が業務に当たり安定的な運用ができています。引き続き、定例会議等を開催し、綿密に情報共有を行うとともに会計年度任用職員の資質向上を図っていく必要がある。一方、宿日直業務の今後の運用については、新庁舎での業務開始時期を見据えて、直営・委託のいずれが望ましいかの検討を行うとともに、行政サービスを低下させないように関係課と十分な協議を行ってきたい。 |
| A 見直し・廃止 | ②顧問弁護士については令和5年度から2事務所のうち1事務所は、時間制によるタイムチャージとしている。次年度も同様の契約内容を考えている。 |
| B 継続 | |
| C 充実 | |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月25日 |
| 部署名 | 総務部 総務課 |
| 評価者 | 中谷 明彦 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|--------|
| 事業番号 | 022137 | 事業名称 | 文書管理事務 |
|------|--------|------|--------|

| | | |
|------|-----------------------------|-----------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な行政運営の推進 | (経営的施策1) 効率的・効果的な行政運営 |
|------|-----------------------------|-----------------------|

| | | | |
|------|-----------|------|----------------|
| 予算科目 | (款) 総務費 | 事業種別 | (大事業) 総務費 |
| | (項) 総務管理費 | | (中事業) 総務管理運営事業 |
| | (目) 文書管理費 | | (小事業) 文書管理事務 |

| | | | | | | | |
|------|--|-------------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 事業目的 | 市が收受及び発送する文書を適正に管理し、引継ぎ、保管、廃棄等を行うことで、情報公開の推進を目指す。また、市が制定する例規を管理するとともに、関係法令に関する資料を整備することで、各課の業務をサポートする。 | (現年) | | | | | |
| | | 事業費 (単位:千円) | 当初予算 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | 決算 | 24,986 | 24,931 | | | |

| | |
|------|--|
| 事業概要 | 全庁的な文書管理システムの構築及び運用。文書の保管、廃棄等書庫の管理。発送及び收受する文書の取りまとめ、例規集・例規システムの運用及び管理、法令データの整備。行政不服審査会及び審理員に関すること。 |
|------|--|

■実施(DO)

| | | | | | | | | |
|-------|---|---|----|---------------|--------|--------|--------|--------|
| 成果指標1 | 設定困難(文書検索に要する時間等が考えられるが数値化が困難なため設定しない。) | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | | (令和8年度目標値 →) | | | | |
| 成果指標2 | | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | | (令和8年度目標値 →) | | | | |
| 活動指標1 | 1年間に文書管理システムに登録される文書の件数 | → | 単位 | 予定 | 80,000 | 80,000 | 80,000 | 80,000 |
| | | | | 実績 | 87,945 | | | |
| 活動指標2 | 総務課取りまとめ郵送料 | → | 単位 | 予定 | 15,612 | 15,612 | 15,612 | 15,612 |
| | | | | 実績 | 12,328 | | | |
| 活動指標3 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標4 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|---|--|
| 必要性 | 公共性 | B A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となることが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある | 法令に基づき適正に事務を執行するためには、必要不可欠な事業である。 また、市の文書を適切に管理、保管、廃棄等することで、円滑な業務の遂行を支援する。 |
| | 市民ニーズ | C A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない | 文書を適正に管理することにより、情報公開を適正に行うことにつながるが、市民のニーズに左右されるものではない。 また、市の例規については、制定改廃した例規を市民に対して公表する必要がある。 |
| 有効性 | 制度設計 | B A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある | 文書管理システムに電子決裁機能を導入し、ペーパーレス化につなげていることから効果的な制度設計といえる。一方で、一部機能の向上により、効果的なシステムを構築する余地はあるといえる。 |
| | 達成度 | D A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない | 文書検索に要する時間等が考えられるが数値化が困難なため指標設定になじまない。 |
| 公平性 | 受益者負担 | A A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない | 水道事業部局より「庁舎維持管理等費用に関する協定書」の規定に基づき、文書管理事務に係る費用(郵送料を除く。)の5.14%を負担金として徴収しており、適切な割合が負担されている。 |
| 効率性 | 事業手法 | B A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない | 既に例規システム(条例、規則、要綱)の更新、文書管理システムに関する保守、保存期間満了文書の処分等を委託している。 |
| | コスト | C A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない | 保守契約は、システムを導入している業者に限られるため、コストを削減することは難しい。 |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|---|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| B | 令和2年11月から文書管理システムに電子決裁機能を導入した。決裁を持ち回る機会の減少や紙媒体で保存する文書の削減により、事務の効率化に繋がっている。導入年度の電子決裁率は40%ほどであったが、令和5年度の電子決裁率は75%ほどであり、年々上昇している。今年度も、引き続き電子決裁の利用について庁内に周知し、促進を図っていく。 また、令和4年度から行政文書のペーパーレス化を推進し、さらなる事務効率化や市民サービスの向上につなげることを目的に、スキャンングし、PDF化を行っている。令和5年度においてはスキャンの対象文書に10年保存、30年保存を追加し、各課でスキャン作業を行った。加えて、3月議会から議案書のペーパーレス化を本格導入している。次年度以降も引き続き、ペーパーレス化の推進に努める。 最後に、文書の保管については、新庁舎に書庫を設置する予定であるが、書庫の仕様、対象保存文書、今後の文書保存のルール等を検討していく必要がある。 |
| A 見直し・廃止 | |
| B 継続 | |
| C 充実 | |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月25日 |
| 部署名 | 総務部 総務課 |
| 評価者 | 中谷 明彦 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|--------|
| 事業番号 | 022501 | 事業名称 | 統計調査事務 |
|------|--------|------|--------|

| | | | |
|------|-----------------------------|-------|-----------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な行政運営の推進 | ----- | (経営的施策1) 効率的・効果的な行政運営 |
|------|-----------------------------|-------|-----------------------|

| | | | |
|------|-----------|------|--------------|
| 予算科目 | (款) 総務費 | 事業種別 | (大事業) 総務費 |
| | (項) 統計調査費 | | (中事業) 統計調査事業 |
| | (目) 統計調査費 | | (小事業) 統計調査事務 |

| | | | | | | | |
|------|----------------------------|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 事業目的 | 指定統計調査・調査員確保対策事業を効率的に実施する。 | (現年) | | | | | |
| | | 事業費 (単位:千円) | 当初予算 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | 決算 | 5,713 | 6,328 | 3,845 | | |

| | |
|------|--|
| 事業概要 | 国・府の法定受託事務事業で、指定統計調査・調査員確保対策事業を実施。事業収支は、府の統計調査市町村交付金取扱要綱に基づき行っている。 |
|------|--|

■実施(DO)

| | | | | | | | | |
|-------|-------------------------|---|----|----------------|-------|-------|-------|-------|
| 成果指標1 | 法定受託事務であり成果を図ることが適当でない。 | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | | (令和8年度目標値 →) | | | | |
| 成果指標2 | | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | | (令和8年度目標値 →) | | | | |
| 活動指標1 | 推薦調査員数(延べ人数) | → | 単位 | 予定 | 45 | 45 | 45 | 45 |
| | | | | 実績 | 65 | | | |
| 活動指標2 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標3 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標4 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|--|--|
| 必要性 | 公共性 | A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となることが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある | 統計法で定められた統計に係る法定受託事務である。 |
| | 市民ニーズ | A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない | 法定受託事務であるため、市民ニーズに左右されるものではない。 |
| 有効性 | 制度設計 | A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある | 個人情報への意識が高まる中、現制度設計では調査に限界がある。国において抜本的な見直しが必要。 |
| | 達成度 | A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない | 法定受託事務であり成果を図ることが適当でない。 |
| 公平性 | 受益者負担 | A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない | 受益者負担を求める事業ではない。 |
| 効率性 | 事業手法 | A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない | 法定受託事務であるため、市に事業を見直す裁量はない。 |
| | コスト | A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない | 法定受託事務であるため、市にコスト削減を行う裁量はない。 |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|--|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| B | 統計調査には市民や事業所の協力は不可欠であり、協力を得るためには統計に対する理解を深めてもらうことが重要であることから、引き続き、広報等による意識啓発を行うとともに、調査員事務説明会を充実し、調査員の資質向上を図る必要がある。 本市の登録調査員は60~70歳代が概ね7割と高齢化が進展しており、調査員の選任にあたっては固定化も生じていることから、統計調査員の確保・育成は大きな課題である。 引き続き、調査員確保の取組みとして、市ウェブサイトや広報誌を活用した登録調査員の募集などの啓発活動を実施する。 |
| A 見直し・廃止 | |
| B 継続 | |
| C 充実 | |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月25日 |
| 部署名 | 総務部 総務課 |
| 評価者 | 中谷 明彦 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|---------|
| 事業番号 | 023106 | 事業名称 | 庁舎等管理事務 |
|------|--------|------|---------|

| | | |
|------|-----------------------------|-----------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な行政運営の推進 | (経営的施策1) 効率的・効果的な行政運営 |
|------|-----------------------------|-----------------------|

| | | | |
|------|-----------|------|----------------|
| 予算科目 | (款) 総務費 | 事業種別 | (大事業) 総務費 |
| | (項) 総務管理費 | | (中事業) 総務施設管理事業 |
| | (目) 財産管理費 | | (小事業) 庁舎等管理事務 |

| | | | | | |
|------|--|----------------|-----------------|---------|-------|
| 事業目的 | 行政サービスの拠点として、安全・安心かつ市民ニーズに応じられるよう、市庁舎の効率的・効果的な維持管理を行う。 | (現年) | | | |
| | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | 事業費 (単位:千円) | 当初予算 146,802 | 125,179 | |
| | | 決算 | 138,123 | | |

| | |
|------|---|
| 事業概要 | 市庁舎を適正に維持管理するために、人材の雇用や駐車場管理、業務、修繕等を行う。また、庁舎という特性を活かし、有料広告掲載など、収入面の改善を図る。 |
|------|---|

■実施(DO)

| | | | | | | | |
|-------|----------------|---|----|------------------------|-------|-------|-------|
| 成果指標1 | 消防設備点検指摘事項件数 | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | 実績 | 6 | | |
| | | | | 〔 件 〕 (令和8年度目標値 → 0 件) | | | |
| 成果指標2 | 建築設備定期検査指摘事項件数 | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | 実績 | 2 | | |
| | | | | 〔 件 〕 (令和8年度目標値 → 0 件) | | | |
| 活動指標1 | 各種点検業務の点検回数 | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | 47 | 47 | 47 |
| | | | | 実績 | 47 | | |
| 活動指標2 | | → | 単位 | 予定 | | | |
| | | | | 実績 | | | |
| 活動指標3 | | → | 単位 | 予定 | | | |
| | | | | 実績 | | | |
| 活動指標4 | | → | 単位 | 予定 | | | |
| | | | | 実績 | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|---|---|
| 必要性 | 公共性 | B A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となることが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある | 行政サービスの拠点として、安全・安心かつ市民ニーズに応じられるよう、市庁舎の効率的・効果的な維持管理を行うためには、行政が主体となり取組む必要がある。 |
| | 市民ニーズ | A A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない | 行政サービスの拠点である市庁舎を、安全・安心かつ効率的・効果的な維持管理を行うためには、本事業は必要である。 |
| 有効性 | 制度設計 | A A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある | 市庁舎の維持管理業務は、行政サービスの提供には欠かせないものであり、効果的な制度設計となっている。 |
| | 達成度 | B A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない | 新庁舎の建設を踏まえ、老朽化した設備等について最小の範囲で改修を実施しており、成果指標を概ね達成できている。 |
| 公平性 | 受益者負担 | A A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない | 水道事業部局より「庁舎維持管理等費用に関する協定書」の規定に基づき、維持管理業務の5.14%を庁舎維持管理等費用として徴収しており、適切な割合が負担されている。 |
| 効率性 | 事業手法 | B A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない | 維持管理業務は、新庁舎での業務開始時期に管理手法を個別発注方式から総合管理発注方式に変更することも考えられるが、管理コストとしては増額することは避けられないため、運用管理面・コスト面での比較などを慎重に判断する必要がある。 |
| | コスト | C A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない | 新庁舎での業務開始時期に維持管理業務を現在の管理手法から変更した場合は、コスト削減を行うことは難しい。 |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|---|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| B | 庁舎及び設備の老朽化に伴い修繕が必要な箇所は年々増加傾向にあるが、新庁舎が建設されるまでの期間を見据えて、修繕の必要性を十分に検討しながら、必要最小限の範囲で維持管理を行う。 なお、新庁舎での業務開始時期を見据えて、維持管理業務手法(個別発注方式又は総合管理発注方式)を検討する必要があるが、管理コストの増額は避けられないため、運用管理面・コスト面での比較などを慎重に判断していく必要がある。 |
| A 見直し・廃止 | |
| B 継続 | |
| C 充実 | |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月25日 |
| 部署名 | 総務部 総務課 |
| 評価者 | 中谷 明彦 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|--------|
| 事業番号 | 024106 | 事業名称 | 庁舎整備事業 |
|------|--------|------|--------|

| | | |
|------|-----------------------------|-------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な行政運営の推進 | (経営的施策2) 計画的な財産管理 |
|------|-----------------------------|-------------------|

| | | | |
|------|-----------|------|---------------|
| 予算科目 | (款) 総務費 | 事業種別 | (大事業) 総務費 |
| | (項) 総務管理費 | | (中事業) 総務費建設事業 |
| | (目) 財産管理費 | | (小事業) 庁舎整備事業 |

| | | | | | | | |
|------|---|----------------|--------|-------|-------|-------|-------|
| 事業目的 | 庁舎設備の改修・整備を実施し、庁舎機能を保持することにより計画的な財産管理を行う。 | (現年) | | | | | |
| | | 事業費 (単位:千円) | 当初予算 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | 決算 | 20,000 | 3,553 | | | |
| | | | 14,267 | | | | |

| | |
|------|--------------------|
| 事業概要 | 市庁舎設備の新築・改修工事等を行う。 |
|------|--------------------|

■実施(DO)

| | | | | | | | | |
|-------|---|---|----|----------------|--------|-------|-------|-------|
| 成果指標1 | 改修計画の進捗率が成果指標として考えられるが、作成していないため、設定は困難。 | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | | (令和8年度目標値 →) | | | | |
| 成果指標2 | | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | | (令和8年度目標値 →) | | | | |
| 活動指標1 | 改修工事金額 | → | 単位 | 予定 | 20,000 | 3,553 | 0 | 0 |
| | | | | 実績 | 14,267 | | | |
| 活動指標2 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標3 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標4 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|---|--|
| 必要性 | 公共性 | B A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となることが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある | 行政サービスの拠点として、安全・安心かつ市民ニーズに応じられるよう、市庁舎の効率的・効果的な改修・整備を行うためには、行政が主体となり取組む必要がある。 |
| | 市民ニーズ | A A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない | 行政サービスの拠点である市庁舎を、安全・安心かつ効率的・効果的な改修・整備を行うためには、本事業は必要である。 |
| 有効性 | 制度設計 | A A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある | 市庁舎の改修・整備は、行政サービスの提供には欠かせないものであり、効果的な制度設計となっている。 |
| | 達成度 | D A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない | 内部管理事務のため指標設定になじまない。 |
| 公平性 | 受益者負担 | D A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない | 受益者負担を求めるものではない。 |
| 効率性 | 事業手法 | C A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない | 市庁舎の効率的・効果的な改修・整備を行うためには、行政が主体となり取組む手法が望ましい。 |
| | コスト | C A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない | 適正な積算を基に庁舎設備の改修等を公共工事にて発注する。 |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|---|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| B | 新庁舎が建設されるまでの期間、施設改修の必要性を十分に検討しながら、最小限の範囲で工事を実施する。 |
| A 見直し・廃止 | |
| B 継続 | |
| C 充実 | |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|--------------|
| 作成日 | 令和6年6月12日 |
| 部署名 | 総務部 新庁舎整備推進室 |
| 評価者 | 荒木 博之 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|---------|
| 事業番号 | 024115 | 事業名称 | 新庁舎建設事業 |
|------|--------|------|---------|

| | | |
|------|-----------------------------|-------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な行政運営の推進 | (経営的施策2) 計画的な財産管理 |
|------|-----------------------------|-------------------|

| | | | |
|------|-----------|------|---------------|
| 予算科目 | (款) 総務費 | 事業種別 | (大事業) 総務費 |
| | (項) 総務管理費 | | (中事業) 総務費建設事業 |
| | (目) 財産管理費 | | (小事業) 新庁舎建設事業 |

| | | | | | | | |
|------|---|-------------|---------|---------|-------|-------|-------|
| 事業目的 | 耐震性能が不足している現庁舎の建替えを行い、防災拠点としての耐震性能を備えた、すべての人にやさしい新庁舎の整備を行う。 | (現年) | | | | | |
| | | 事業費 (単位:千円) | 当初予算 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | 決算 | 268,569 | 838,586 | | | |

| | |
|------|---|
| 事業概要 | 耐震性能の不足や、施設・設備等の老朽化などの様々な課題を抱えた現庁舎について、令和2年11月に策定した「富田林市庁舎整備基本計画」に基づき防災拠点としての耐震性能を備えた、すべての人にやさしい新庁舎の建設工事及び関係業務を進める。 |
|------|---|

■実施(DO)

| | | | | | | | | |
|-------|---|---|----|----|-------|-------|-------|-------|
| 成果指標1 | 設定困難(設計業務等の進捗率が成果指標として考えられるが、数値化することが困難なため設定しない。) | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | | | | |
| 成果指標2 | | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標1 | 市民ワークショップの実施回数 ※令和6年度以降は建設工事のため設定しない | → | 単位 | 予定 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 活動指標2 | 市民説明会の実施回数 ※令和6年度以降は建設工事のため設定しない | → | 単位 | 予定 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 活動指標3 | 各種団体ヒアリングの実施回数 ※令和6年度以降は建設工事のため設定しない | → | 単位 | 予定 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 活動指標4 | | → | 単位 | 予定 | | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|----|--|
| 必要性 | 公共性 | B | A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となることが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある |
| | 市民ニーズ | A | A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない |
| 有効性 | 制度設計 | A | A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある |
| | 達成度 | D | A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない |
| 公平性 | 受益者負担 | D | A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない |
| 効率性 | 事業手法 | C | A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない |
| | コスト | B | A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|--|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| B | 本事業は令和2年11月に策定された市庁舎の個別施設計画にあたる「富田林市庁舎整備基本計画」に基づき事業を進めている。令和5年度には設計業務が完了し、その後、同年12月に建設工事の契約を締結し本格的に工事着手しており、令和9年度の一部共用開始、令和11年度の全体供用開始に向け、工事の進捗管理に加え、多岐にわたる関係業務についても効率的に進める必要がある。また、財源計画についても有利な事業債や基金、整備内容に応じて活用可能な補助金を検討し、財政負担に配慮しながら事業を進める。 |
| A 見直し・廃止 | |
| B 継続 | |
| C 充実 | |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月27日 |
| 部署名 | 総務部 行政管理課 |
| 評価者 | 西田 弘育 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|--------------|
| 事業番号 | 022143 | 事業名称 | 市民災害賠償補償保険事務 |
|------|--------|------|--------------|

| | | |
|------|-----------------------------|-----------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な行政運営の推進 | (経営的施策1) 効率的・効果的な行政運営 |
|------|-----------------------------|-----------------------|

| | | | |
|------|-----------|------|--------------------|
| 予算科目 | (款) 総務費 | 事業種別 | (大事業) 総務費 |
| | (項) 総務管理費 | | (中事業) 総務管理運営事業 |
| | (目) 一般管理費 | | (小事業) 市民災害賠償補償保険事務 |

| | | | | | | |
|------|-----------------------------|----------------|------------------------|----------------|-------|-------|
| 事業目的 | 事故等に伴う、賠償・補償などの不意の支出増加に備える。 | (現年) | | | | |
| | | 事業費 (単位:千円) | 令和5年度 当初予算 2,296 | 令和6年度 2,281 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | 決算 1,787 | | | |

| | |
|------|---|
| 事業概要 | 市主催の行事や施設での事故、個人情報漏洩に対する賠償金を補填するため、保険の加入、継続、請求等の各種手続きを主に行う。 |
|------|---|

■実施(DO)

| | | | | | | | | |
|-------|------------------------------------|---|----|---------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 成果指標1 | 支出を想定することが不適当な事業であり、成果指標の設定になじまない。 | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | | (令和8年度目標値 →) | | | | |
| 成果指標2 | 設定なし | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | | (令和8年度目標値 →) | | | | |
| 活動指標1 | 保険料額 | → | 単位 | 予定 | 1,886,813 | 1,886,813 | 1,886,813 | 1,886,813 |
| | | | | 実績 | 1,786,674 | | | |
| 活動指標2 | 事故等の発生件数(保険適用事業の実績のみ) | → | 単位 | 予定 | - | - | - | - |
| | | | | 実績 | 2 | | | |
| 活動指標3 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標4 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|---|---|
| 必要性 | 公共性 | A 行政が実施主体(直営・委託)となるのが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となるのが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある | 事故等で、市が負った賠償責任に対する事業であり、市が主体となるのが法令等で規定されている。 |
| | 市民ニーズ | A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない | 市の賠償責任に対する市民の目線は厳しく、ニーズは高い。 |
| 有効性 | 制度設計 | B A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある | 賠償責任が発生した時の示談について、各部署の職員が市民と示談交渉しており負担となっている。示談代行が弁護士業務であるため、示談代行できる商品があれば見直す余地がある。 |
| | 達成度 | D A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない | 市民に対する賠償であり、指標を設定していない。 |
| 公平性 | 受益者負担 | D A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない | 受益者負担をもとめるものではない。 |
| 効率性 | 事業手法 | C A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない | 市の業務の広範囲をカバーしている保険商品であり、保険料についても人口規模に合わせたもので見直す余地がない。 |
| | コスト | C A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない | 備えるための保険であり、削減を行う余地はない。 |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|--|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| B | 年に1件~3件ほど賠償事案が発生し、示談交渉を職員が行い負担はあるが、弁護士委任しなくても、保険会社のアドバイスを受けながら示談対応できているので、件数から考えても現状維持で良いと考える。 |
| A 見直し・廃止 | |
| B 継続 | |
| C 充実 | |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月27日 |
| 部署名 | 総務部 行政管理課 |
| 評価者 | 西田 弘育 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|--------|
| 事業番号 | 022144 | 事業名称 | 車両管理事務 |
|------|--------|------|--------|

| | | |
|------|-----------------------------|-------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な行政運営の推進 | (経営的施策2) 計画的な財産管理 |
|------|-----------------------------|-------------------|

| | | | |
|------|-----------|------|----------------|
| 予算科目 | (款) 総務費 | 事業種別 | (大事業) 総務費 |
| | (項) 総務管理費 | | (中事業) 総務管理運営事業 |
| | (目) 財産管理費 | | (小事業) 車両管理事務 |

| | | | | | | | |
|------|---------------------------------------|----------------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 事業目的 | 公用車の円滑な整備、点検を行うことで、常に最少かつ最適な配置数を維持する。 | (現年) | | | | | |
| | | 事業費 (単位:千円) | 当初予算 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | 決算 | 19,719 | 14,445 | | | |

| | |
|------|---|
| 事業概要 | 公用自動車(自転車を含む)の整備をはじめとし、その点検や修繕、保険等の各種手続きを主に行う。また、目的の達成を妨げる事故の予防啓発や安全運転管理者会議の運営等もを行っている。 |
|------|---|

■実施(DO)

| | | | | | | | | |
|-------|----------------------------|---|----|--------------------------|-------|-------|-------|-------|
| 成果指標1 | 公用車乗車待ち発生回数(待ち時間10分以上、月平均) | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| | | | | 【 回 】 (令和8年度目標値 → 10 回) | | | | |
| 成果指標2 | 設定なし | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | | 【 】 (令和8年度目標値 →) | | | | |
| 活動指標1 | 配置台数(一元車) | → | 単位 | 予定 | 32 | 32 | 32 | 32 |
| | | | | 実績 | 31 | | | |
| 活動指標2 | 年度整備台数 | → | 単位 | 予定 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | 実績 | 7 | | | |
| 活動指標3 | 年度廃車台数 | → | 単位 | 予定 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | 実績 | 5 | | | |
| 活動指標4 | 事故発生件数 | → | 単位 | 予定 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | 実績 | 29 | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|---|---|
| 必要性 | 公共性 | B A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となることが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある | 内部管理であり、市が主体となることが適当である。 |
| | 市民ニーズ | C A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない | 市民ニーズは把握していないものの、家庭訪問などの各種業務に使用されており、市民生活と直結している。 |
| 有効性 | 制度設計 | B A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある | 予約管理などの車両管理システムを扱う民間業者のノウハウやシステム導入することで適正台数を見直す余地がある。 |
| | 達成度 | C A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない | ずばるホールとの分庁舎化もあり、公用車を待つ回数が減ったように見受けられるが、1回あたりの待ち時間が長くなっている。また、車検点検時期を終えてからの庁舎移転であったことから、5月から7月までの待ち時間の集計が必要で、情報が少ないことから適正台数の把握につながらない。 |
| 公平性 | 受益者負担 | D A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求めるとは余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるとはではない | 直接的に市民等にサービス提供を行う事業ではないため、受益者負担を求めるとはではない。 |
| 効率性 | 事業手法 | B A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない | リース車両に更新していくことでコストを平準化し、点検整備に必要な知識を有しない職員でも対応でき、見直しの余地がある。 |
| | コスト | C A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない | 古い車両が多く、修繕費がかかる。 |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|--|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| B | 車両の更新を購入から15年又は走行距離が10万キロメートルを超えた車両で、走行に不安や多額の修繕が見込まれるものについて、車両更新を認めているが、維持管理や修繕にかかる経費は多額であり、その整備にあたっては必要の知識が必要である。整備にかかる知識を持たなくても、リース車両であればリース会社が一定の基準に沿って整備するため、修理工場と対応する必要がなくなる。職員は、リース契約と事故対応、その他分析などに時間を使うことができるようになり、一定のリース料はかかるがそれ以上のメリットがあると考えられる。 |
| A 見直し・廃止 | |
| B 継続 | |
| C 充実 | |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月27日 |
| 部署名 | 総務部 行政管理課 |
| 評価者 | 西田 弘育 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|--------|
| 事業番号 | 022179 | 事業名称 | 行政管理事務 |
|------|--------|------|--------|

| | | |
|------|-----------------------------|-----------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な行政運営の推進 | (経営的施策1) 効率的・効果的な行政運営 |
|------|-----------------------------|-----------------------|

| | | | |
|------|-----------|------|----------------|
| 予算科目 | (款) 総務費 | 事業種別 | (大事業) 総務費 |
| | (項) 総務管理費 | | (中事業) 総務管理運営事業 |
| | (目) 一般管理費 | | (小事業) 行政管理事務 |

| | | | | | | | |
|------|---|----------------|------|-----------------|--------------|-------|-------|
| 事業目的 | 行政事務の効率化や健全な財政運営を行い、将来にわたって持続可能な行政運営を推進し、市民への安定的なサービス供給を図る。 | (現年) | | | | | |
| | | 事業費 (単位:千円) | 当初予算 | 令和5年度 37,365 | 令和6年度 379 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | 決算 | 32,672 | | | |

| | |
|------|---|
| 事業概要 | 効果的・効率的に事業を推進するため、行政評価(事務事業評価・施策評価)を実施し、また、指定管理者制度の運用や補助金事務の適正化といった、全庁に関わる行政事務の改善を目的とした庁内調整や行政改革に係る計画策定を行う。 |
|------|---|

■実施(DO)

| | | | | | | | | |
|-------|--|---|----|-------------------------|-------|-------|-------|-------|
| 成果指標1 | 将来負担比率 (※「-」は、将来負担比率が算定されず、現時点において今後支払うべき負担等が将来の財政を圧迫する可能性が低いことを示す) | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | [%] (令和8年度目標値 → 0 %) | | | | |
| 成果指標2 | 設定なし | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | | [%] (令和8年度目標値 →) | | | | |
| 活動指標1 | 行政経営改革ビジョンの目標達成率(取組および予算ベース) | → | 単位 | 予定 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 実績 | 100 | | | |
| 活動指標2 | 設定なし | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標3 | 設定なし | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標4 | 設定なし | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|---|---|
| 必要性 | 公共性 | B A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となることが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある | 庁内の事業効率化や有効化のために、行政評価の実施などを行う内部管理事務であるため、市が実施主体となるべきである。 |
| | 市民ニーズ | C A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない | 内部管理事務であり、市民ニーズの変化によって事業の必要性が左右されるものではないため、市民ニーズとの関連性はなく把握していない。 |
| 有効性 | 制度設計 | B A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある | 市全体の行政事務の効率化・有効化のため、事業評価の手法見直しをはじめ、行政評価の仕組みは見直しの余地が残ると考えられる。 |
| | 達成度 | A A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない | 現状、将来負担比率が算定されず、将来の財政を圧迫する可能性は低いため、指標は達成している。 |
| 公平性 | 受益者負担 | D A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない | 直接的に市民等にサービス提供を行う事業ではないため、受益者負担を求めるものではない。 |
| 効率性 | 事業手法 | C A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない | 計画策定のコンサルタント業務等は外部委託の余地が考えられるものの、本事務は内部管理事務であり、直営で行うことが最適であるため、事業手法を見直す余地はない。 |
| | コスト | C A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない | 本事務の予算は、指定管理者選定委員会に係る報酬等の予算、課内の消耗品予算等の必要経費のためのもので、必要経費のみであるため、更なるコスト削減の余地はない。 |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|---|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| B | 限られた財源の中で行政事務の効率化や健全な財政運営を行うために、PDCAサイクルの最適化が課題となるため、実施計画との連動性を高めた施策評価を令和5年度より実施した。令和6年度は、評価項目を充実させた新たな事業評価シートによる評価を実施計画より先行して実施し、施策評価の仕組みの改善を図る。なお、人件費を含めたフルコスト計算の導入には至っていないため、今後の課題として位置づける。行政改革の推進について、「行政経営改革ビジョン」が令和6年度末に終期を迎えるため、外部有識者の意見を聴取した上で令和7年度中に次期計画を策定する必要がある。補助金制度については、令和5年度に「補助金等の適正化に関する指針(ガイドライン)」を策定した。今後は本指針に沿った補助金適正化が必要であるため、指針策定と併せて実施した既存補助金の点検内容を参考に、見直しの内容を各課との調整、サンセット方式の導入、手続マニュアルの更新により、更なる補助金適正化を図る。 |
| A 見直し・廃止 | |
| B 継続 | 指定管理者制度については、今後も安定的な施設運営の継続のため、「指定管理者制度運用ガイドライン」に準じつつ、事務局として施設所管課との連携を強化し、発生する事業に対して取り組んでいく。 |
| C 充実 | |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月27日 |
| 部署名 | 総務部 行政管理課 |
| 評価者 | 西田 弘育 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|----------|
| 事業番号 | 022186 | 事業名称 | 市有財産管理事務 |
|------|--------|------|----------|

| | | |
|------|-----------------------------|-------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な行政運営の推進 | (経営的施策2) 計画的な財産管理 |
|------|-----------------------------|-------------------|

| | | | |
|------|-----------|------|----------------|
| 予算科目 | (款) 総務費 | 事業種別 | (大事業) 総務費 |
| | (項) 総務管理費 | | (中事業) 総務管理運営事業 |
| | (目) 財産管理費 | | (小事業) 市有財産管理事務 |

| | | | | | |
|----------------|--------------------------------|-------|--------|-------|-------|
| 事業目的 | 公有財産の適正な管理と、所有目的に応じた効率的な運用を図る。 | (現年) | | | |
| | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| 事業費 (単位:千円) | 当初予算 | 6,695 | 11,388 | | |
| | 決算 | 8,186 | | | |

| | |
|------|---|
| 事業概要 | ①公有財産の財産台帳の適正管理を行う。また、自然災害等に対応するため保険に加入し、災害時の行政運営の迅速な復旧に備える。②普通財産を適切かつ効率的に維持管理し、未利用地の貸付や売却など積極的な活用を図る。③「富田林市公共施設等総合管理計画」に基づき、「総量の最適化」「長寿命化」「ライフサイクルコストの縮減」等、「公共施設マネジメント」を推進する。④市有建築物(教育委員会所管施設を除く)の新築・改修等に係る設計、工事監理業務を行う。 |
|------|---|

■実施(DO)

| | | | | | | | | |
|-------|------------------------------|---|----|--|------|------|------|------|
| 成果指標1 | 市民一人当たりの公共建築物延べ床面積 | → | 単位 | 予定 | 2.84 | 2.84 | 2.84 | 2.84 |
| | | | | 実績 | 2.96 | | | |
| | | | | 〔 m ² /人 〕 (令和8年度目標値 → 2.84 m ² /人) | | | | |
| 成果指標2 | 設定なし | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | | 〔 〕 (令和8年度目標値 →) | | | | |
| 活動指標1 | 財産台帳増減件数(実績のみ) | → | 単位 | 予定 | - | - | - | - |
| | | | | 実績 | 23 | | | |
| 活動指標2 | 普通財産(未利用地)の活用(売却・貸付)件数(実績のみ) | → | 単位 | 予定 | - | - | - | - |
| | | | | 実績 | 4 | | | |
| 活動指標3 | 公共建築物の延べ床面積増減数(実績のみ) | → | 単位 | 予定 | - | - | - | - |
| | | | | 実績 | 673 | | | |
| 活動指標4 | 市有建築物の工事・業務依頼件数 | → | 単位 | 予定 | - | - | - | - |
| | | | | 実績 | 17 | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|--|--|
| 必要性 | 公共性 | B A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となるのが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある | 市有財産の管理であり、市が主体となり計画の策定や営繕業務を実行することが適当である。 |
| | 市民ニーズ | A A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない | 公共施設のあり方について、再配置計画の改定にはアンケートを実施し、ニーズを把握している。また、公共施設の各部署からの依頼工事を実施することで市民ニーズにあった形の一助となっている。 |
| 有効性 | 制度設計 | B A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある | 公共施設マネジメントにおいて改善の余地がある |
| | 達成度 | C A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない | 再配置計画で指標としている人口一人当たりの面積2.84m ² は達成できていない。 |
| 公平性 | 受益者負担 | A A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない | 普通財産の使用・貸付においては、公有財産規則に基づき、適正な受益者負担を求めている。 |
| 効率性 | 事業手法 | B A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない | 土地管理と施設マネジメントと営繕があり、施設管理関係を公共施設の一括管理委託するなど見直しの余地がある。 |
| | コスト | C A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない | 普通財産の維持管理経費であり、最低限のコストである。また、工事費などは、担当課に予算化されており、削減の余地はない。 |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|---|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| B | 資産活用方法について、行政目的を終えた財産については、売却が中心となっているが、売却できない普通財産の隣接者や地元から除草など維持管理について要望が増え除草や防草シート設置工事などを実施している。こういった普通財産(未利用地)の経費がかかるため、売れ残った土地について市場価格より減額して売却できる制度について検討を行う必要がある。併せて、個別施設計画の策定に伴いより効率的な施設運営を実施するために、市民や団体、民間企業等が幅広く余剰空間を活用できる資産活用制度などについて検討を行う必要がある。 |
| A 見直し・廃止 | 公共施設マネジメントについては、施設の長寿命化やライフサイクルコストの縮減などが課題となることから、個別施設計画に基づく計画的な整備事業の実施や、個別施設計画策定後の進捗管理などを推進するための公共施設マネジメント体制の構築検討などが必要となる。また、再配置計画が改訂された後、個別施設計画についても令和8年度からの第2期計画の策定が必要である。 |
| B 継続 | |
| C 充実 | |

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月27日 |
| 部署名 | 総務部 行政管理課 |
| 評価者 | 西田 弘育 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|-----------|
| 事業番号 | 412101 | 事業名称 | 財産区財産管理事業 |
|------|--------|------|-----------|

| | | | |
|------|-----------------------------|-------|-----------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な行政運営の推進 | ----- | (経営的施策1) 効率的・効果的な行政運営 |
|------|-----------------------------|-------|-----------------------|

| | | | |
|------|--------------|------|-----------------|
| 予算科目 | (款) 財産区財産管理費 | 事業種別 | (大事業) 財産区財産管理事業 |
| | (項) 財産区財産管理費 | | (中事業) 財産区財産管理事業 |
| | (目) 財産区財産管理費 | | (小事業) 財産区財産管理事業 |

| | | | | | |
|----------------|-----------------|---------|---------|-------|-------|
| 事業目的 | 財産区財産の適正な維持・管理。 | (現年) | | | |
| | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| 事業費 (単位:千円) | 当初予算 | 311,028 | 126,186 | | |
| | 決算 | 43,647 | | | |

| | |
|------|---|
| 事業概要 | 財産区財産の適正な維持・管理を図るため、積立金の積立てや事業に対する補助金の支出等を行う。 |
|------|---|

■実施(DO)

| | | | | | | | | |
|-------|------------------------------|---|----|---------------|-------|---|---|---|
| 成果指標1 | 施策的目的のない事業であり、成果指標の設定になじまない。 | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | | (令和8年度目標値 →) | | | | |
| 成果指標2 | 設定なし | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | | (令和8年度目標値 →) | | | | |
| 活動指標1 | 財産の貸付・売却等の収益(実績のみ) | → | 単位 | 予定 | - | - | - | - |
| | | | | 実績 | 3,174 | | | |
| 活動指標2 | 補助金支出額(実績のみ) | → | 単位 | 予定 | - | - | - | - |
| | | | | 実績 | 7,035 | | | |
| 活動指標3 | 設定なし | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標4 | 設定なし | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|---|--|
| 必要性 | 公共性 | B A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となることが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある | 財産区財産の維持管理の性質上、行政が管理すべきものを地元の水利組合や町会が管理してきた歴史的経過がある。補助金支出することで財産区の役割を果たし、市が関与することで維持管理に意見できることもあり、これまで通りの関与が必要である。 |
| | 市民ニーズ | A A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない | 財産区財産は、ため池などが中心で、その水を農業利用されている。また、近隣住民からも除草などの維持管理を求められていることから、範囲は狭いものの市民ニーズは高い。 |
| 有効性 | 制度設計 | B A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある | 地元の高齢化や営農者が減少し、除草などの維持管理が難しくなってきた。維持管理方法について検討の余地があると考えられる。 |
| | 達成度 | D A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない | 維持管理を目的としており、目標を設定していない。 |
| 公平性 | 受益者負担 | D A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない | 本来、財産区が管理をするものであり、受益者に対するサービスの提供もしておらず、負担を求めるものではない。 |
| 効率性 | 事業手法 | B A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない | 地元への補助金支出がメインであり、地元の高齢化などにより、維持管理できなくなれば、財産区が主体となり委託による維持管理が考えられる。 |
| | コスト | C A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない | 最低限の維持管理費のみ計上しており、コスト削減できない。 |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|---|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| B | 財産区財産の主な財産であるため池や水路の清掃や管理について、財産区に変わり地元町会や水利組合が補助金を受けている地区もありながら行ってきた。営農者の減少や地元住民の高齢化により、人手不足や高齢により対応できなくなってきた。そのため、財産区(市)が主体となり維持管理を発注していくなど、見直ししていかないといけないようになってきている。 |
| A 見直し・廃止 | |
| B 継続 | |
| C 充実 | |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月26日 |
| 部署名 | 総務部 財政課 |
| 評価者 | 東 康則 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|--------|
| 事業番号 | 022156 | 事業名称 | 財政管理事務 |
|------|--------|------|--------|

| | | | |
|------|-----------------------------|-------|-----------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な財政運営の推進 | ----- | (経営的施策1) 効率的・効果的な財政運営 |
|------|-----------------------------|-------|-----------------------|

| | | | |
|------|-----------|------|----------------|
| 予算科目 | (款) 総務費 | 事業種別 | (大事業) 総務費 |
| | (項) 総務管理費 | | (中事業) 総務管理運営事業 |
| | (目) 財政管理費 | | (小事業) 財政管理事務 |

| | | | | | |
|----------------|--|--------|--------|--------|-------|
| 事業目的 | 予算の編成や執行管理等を通して、健全で持続可能な財政運営に取り組むことを目的とする。 | (現年) | | | |
| | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | 当初予算 | 12,144 | 12,541 | |
| 事業費 (単位:千円) | 決算 | 10,075 | | | |

| | |
|------|--|
| 事業概要 | 市の予算編成及び執行管理、市債の借入手続き、地方交付税の算定事務、地方公会計制度に基づく財務書類の公表など、市の財政運営に関する事務を行う。 |
|------|--|

■実施(DO)

| | | | | | | | | |
|-------|---|---|--------|---------------------|-------|-------|-------|-------|
| 成果指標1 | 財源を超えない当初予算査定 (財政調整基金の取崩額 ※地方債繰上償還を除く) | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | 0 | | | |
| | | | [千円] | (令和8年度目標値 → - 千円) | | | | |
| 成果指標2 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | [] | (令和8年度目標値 →) | | | | |
| 活動指標1 | 査定事業数 | → | 単位 | 予定 | - | - | - | 590 |
| | | | | 実績 | 590 | | | |
| | | | [事業] | | | | | |
| 活動指標2 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | [] | | | | | |
| 活動指標3 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | [] | | | | | |
| 活動指標4 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | [] | | | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|--|--|
| 必要性 | 公共性 | A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となることが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある | 内部管理の事務であり、行政が実施主体である。 |
| | 市民ニーズ | A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない | 内部管理の事務であり、市民ニーズとは関連しない。 |
| 有効性 | 制度設計 | A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある | 将来的にも安定した財政運営に取り組むため、事務事業評価や実施計画を予算査定に活用するなど、より効果的な改善の余地はある。 |
| | 達成度 | A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない | 財政調整基金の取崩を伴わない、歳入の範囲で歳出予算を組む当初予算編成を達成している。 |
| 公平性 | 受益者負担 | A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない | 内部管理の事務であり、受益者負担を求めるものではない。 |
| 効率性 | 事業手法 | A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない | 枠配分予算の導入を検討するなど、効率的な予算査定手法の見直し余地がある。 |
| | コスト | A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない | 電子化・ペーパーレス化の余地があることから、ICT技術を活用し、コスト削減の実施が可能である。 |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|---|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| B | 令和5年度に編成した令和6年度一般会計の当初予算額は45,010,000千円であり、その財源には財政調整基金の取崩がなかったことから、財源を超えない予算編成を達成したといえる。しかし、高齢者の増加に伴う扶助費や繰出金の増、新庁舎建設事業を始めとした老朽化した公共施設の更新・維持管理費の増など、今後の財政運営はさらに厳しい状況となることが予想されるため、将来的な公債費の見直しや公共施設整備基金の計画的な運用、地方公会計制度によるストック情報の活用などを通じて、今後も安定した財政運営に取り組む必要がある。また、本事業では電子化・ペーパーレス化の余地があることから、ICT技術を活用し、事務処理の見直しや改善を図っていく。 |
| A 見直し・廃止 | |
| B 継続 | |
| C 充実 | |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月26日 |
| 部署名 | 総務部 財政課 |
| 評価者 | 東 康則 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|-----------|
| 事業番号 | 029111 | 事業名称 | 財政調整基金積立金 |
|------|--------|------|-----------|

| | | |
|------|-----------------------------|-----------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な行政運営の推進 | (経営的施策1) 効率的・効果的な行政運営 |
|------|-----------------------------|-----------------------|

| | | | |
|------|-----------|------|-----------------|
| 予算科目 | (款) 総務費 | 事業種別 | (大事業) 総務費 |
| | (項) 総務管理費 | | (中事業) 総務費その他事業 |
| | (目) 財産管理費 | | (小事業) 財政調整基金積立金 |

| | | | | | | | |
|------|--|----------------|---------|-------|-------|-------|-------|
| 事業目的 | 健全で持続可能な財政運営に取り組むため、地方財政法第4条の3の規定に基づき、財政調整基金を設置する。 | (現年) | | | | | |
| | | 事業費 (単位:千円) | 当初予算 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | 決算 | 4,394 | 6,511 | | | |
| | | | 127,617 | | | | |

| | |
|------|--|
| 事業概要 | 災害復旧等の予測することができない経費に充てるなど、健全な財政運営を目的とした財政調整基金の管理を行う。 |
|------|--|

■実施(DO)

| | | | | | | | | |
|-------|-------------------------------------|---|--------|-----------|----------------|-------|-------|-------|
| 成果指標1 | 基金積立現在高 (一般的に標準財政規模の10%程度とされている) | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | - | - | - | - |
| | | | [千円] | | (令和8年度目標値 →) | | | |
| | | | | 4,792,651 | | | | |
| 成果指標2 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | [千円] | 実績 | | | | |
| | | | | | (令和8年度目標値 →) | | | |
| 活動指標1 | 積立額 | → | 単位 | 予定 | 4,394 | - | - | 6,511 |
| | | | [千円] | 実績 | 127,617 | | | |
| 活動指標2 | 取崩額 | → | 単位 | 予定 | - | - | - | 0 |
| | | | [千円] | 実績 | 0 | | | |
| 活動指標3 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | [千円] | 実績 | | | | |
| 活動指標4 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | [千円] | 実績 | | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|---|---|
| 必要性 | 公共性 | A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となることが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある | 内部管理の事務であり、行政が実施主体である。 |
| | 市民ニーズ | C A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない | 内部管理の事務であり、市民ニーズとは関連しない。 |
| 有効性 | 制度設計 | A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある | 不測の事態に備えるための地方財政法に規定された基金であり、改善の余地はない。 |
| | 達成度 | A A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない | 一般的に標準財政規模の10%程度の積立とされている基準を超える基金残高を達成している。 |
| 公平性 | 受益者負担 | D A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない | 内部管理の事務であり、受益者負担を求めるものではない。 |
| 効率性 | 事業手法 | C A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない | 基金への積み立て財源として、利子収入に加えて、基金残高を踏まえ、財源に余裕がある年度には剰余金等を財源として積立を行うものであり、手法見直しの余地はない。 |
| | コスト | C A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない | 財政状況に応じて積極的に積立を行うもので、コスト削減の余地はない。 |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|--|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| B | 財政調整基金の令和5年度末現在高は4,792,651千円であり、一般的に積立金の適正額の目安とされる標準財政規模(令和5年度:24,503,475千円)の10%以上は確保された。今後も、引き続き適正額を下回ることのないよう基金管理を行うため、基金運用による利子収入や、地方財政法に規定された前年度剰余金の2分の1以上につき、基金への積立を行う。 |
| A 見直し・廃止 | |
| B 継続 | |
| C 充実 | |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月26日 |
| 部署名 | 総務部 財政課 |
| 評価者 | 東 康則 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|-------------|
| 事業番号 | 029112 | 事業名称 | 公共施設整備基金積立金 |
|------|--------|------|-------------|

| | | |
|------|-----------------------------|-----------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な行政運営の推進 | (経営的施策1) 効率的・効果的な行政運営 |
|------|-----------------------------|-----------------------|

| | | | |
|------|-----------|------|-------------------|
| 予算科目 | (款) 総務費 | 事業種別 | (大事業) 総務費 |
| | (項) 総務管理費 | | (中事業) 総務費その他事業 |
| | (目) 財産管理費 | | (小事業) 公共施設整備基金積立金 |

| | | | | | | | |
|------|------------------------------------|----------------|--------|-------|-------|-------|-------|
| 事業目的 | 将来的な公共施設の整備資金に充てるため、公共施設整備基金を設置する。 | (現年) | | | | | |
| | | 事業費 (単位:千円) | 当初予算 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | 決算 | 55,724 | 7,124 | | | |

| | |
|------|--|
| 事業概要 | 公共施設の整備・改修等に充てることを目的とした公共施設整備基金の管理を行う。 |
|------|--|

■実施(DO)

| | | | | | | | | |
|-------|---------|---|----|--------|-----------------------------|-----------|-----------|-----------|
| 成果指標1 | 基金積立現在高 | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | 3,989,823 | 4,042,797 | 4,095,771 | 4,148,745 |
| | | | | [千円] | (令和8年度目標値 → 4,148,745 千円) | | | |
| 成果指標2 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | | [] | (令和8年度目標値 →) | | | |
| 活動指標1 | 積立額 | → | 単位 | 予定 | 55,724 | - | - | 7,124 |
| | | | | 実績 | 444,778 | | | |
| 活動指標2 | 取崩額 | → | 単位 | 予定 | 131,995 | 0 | 0 | 1,047,586 |
| | | | | 実績 | 558,751 | | | |
| 活動指標3 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標4 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|---|--|
| 必要性 | 公共性 | A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となることが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある | 内部管理の事務であり、行政が実施主体である。 |
| | 市民ニーズ | C A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない | 内部管理の事務であり、市民ニーズとは関連しない。 |
| 有効性 | 制度設計 | A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある | 公共施設の整備等に備えた特定目的基金であり、効果的な制度設計である。 |
| | 達成度 | C A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない | 公共施設の大型更新を控え、今後、基金残高は減少する見込みである。 |
| 公平性 | 受益者負担 | D A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない | 内部管理の事務であり、受益者負担を求めるものではない。 |
| 効率性 | 事業手法 | B A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない | 基金の積立て財源については、利子収入や大阪都市ポートレース企業団からの競艇配分金に加えて、毎年度の予算編成時に検討を行う必要がある。 |
| | コスト | C A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない | 財源が確保できる限りは積極的に積立を実施すべきものである。 |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|---|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| B | 市役所庁舎の建て替えをはじめ、老朽化した公共施設の整備・改修が始まっており、毎年度の取崩が必要となる可能性が高い。一方、積立としては基金利子収入や競艇事業の配分金、公有財産の売却収入を積み立てている。今後の事業の財源として公共施設整備基金の取崩だけでなく、地方債の借り入れやそれに伴う公債費の負担増など、将来的な施設整備に関する財政運営の見直しを踏まえ、計画的な基金の管理が必要である。 |
| A 見直し・廃止 | |
| B 継続 | |
| C 充実 | |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月26日 |
| 部署名 | 総務部 財政課 |
| 評価者 | 東 康則 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|-------------------|
| 事業番号 | 049302 | 事業名称 | 水道事業会計繰出金(特別減免分等) |
|------|--------|------|-------------------|

| | | |
|------|------------------------------|------------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な行財政運営の推進 | (経営的施策1) 効率的・効果的な行財政運営 |
|------|------------------------------|------------------------|

| | | | |
|------|---------------|------|-------------------------|
| 予算科目 | (款) 衛生費 | 事業種別 | (大事業) 衛生費 |
| | (項) 水道事業会計繰出金 | | (中事業) 衛生費その他事業 |
| | (目) 水道事業会計繰出金 | | (小事業) 水道事業会計繰出金(特別減免分等) |

| | | | | | |
|------|---|----------------|-----------|--------|-------|
| 事業目的 | 物価高騰の影響を受けた市民及び市内事業者の経済的負担を軽減するため、水道基本料金の減免を実施するにあたり、水道事業会計への繰出を行う。 | (現年) | | | |
| | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | 事業費 (単位:千円) | 当初予算 0 | 78,984 | |
| | | 決算 | 77,848 | | |

| | |
|------|---|
| 事業概要 | 市民及び市内事業者の水道基本料金(令和6年2月及び3月検針分)減免額を、一般会計から水道事業会計に繰出すもの。 |
|------|---|

■実施(DO)

| | | | | | | | | |
|-------|---|---|----|---------------|--------|-------|-------|-------|
| 成果指標1 | 国の交付金を活用した令和5年度・6年度限りの臨時的な事業であり、水道事業が実施する減免額に対する一般会計からの繰出であることから、成果指標の設定はなじまない。 | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | | (令和8年度目標値 →) | | | | |
| 成果指標2 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | | (令和8年度目標値 →) | | | | |
| 活動指標1 | 水道事業会計への繰出額 | → | 単位 | 予定 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | 実績 | 77,847 | | | |
| 活動指標2 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標3 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標4 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|---|--|
| 必要性 | 公共性 | A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となることが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある | 内部管理の事務であり、行政が実施主体である。 |
| | 市民ニーズ | A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない | 市民等の経済的負担の軽減が目的であり、市民ニーズは高い。 |
| 有効性 | 制度設計 | A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある | 市民等に広く公平に効果が行き渡る制度設計となっている。 |
| | 達成度 | D A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない | 減免額に相当する額の繰出を実施するものであり、指標の設定はなじまない。 |
| 公平性 | 受益者負担 | D A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない | 市民等の経済的負担の軽減が目的であり、受益者負担を求めるものではない。 |
| 効率性 | 事業手法 | C A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない | 国の交付金を活用した令和5年度・6年度限りの臨時的な事業であり、見直しの余地はない。 |
| | コスト | C A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない | 水道事業の減免額に対する一般会計からの繰出であり、コスト削減の余地はない。 |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|--|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| A | 国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用した令和5年度・6年度限りの臨時的な事業である。 |
| A 見直し・廃止 | |
| B 継続 | |
| C 充実 | |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月26日 |
| 部署名 | 総務部 財政課 |
| 評価者 | 東 康則 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|------------|
| 事業番号 | 079421 | 事業名称 | 下水道事業会計繰出金 |
|------|--------|------|------------|

| | | |
|------|-----------------------------|-----------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な行政運営の推進 | (経営的施策1) 効率的・効果的な行政運営 |
|------|-----------------------------|-----------------------|

| | | | |
|------|------------|------|------------------|
| 予算科目 | (款) 土木費 | 事業種別 | (大事業) 土木費 |
| | (項) 都市計画費 | | (中事業) 都市計画投資事業 |
| | (目) 公共下水道費 | | (小事業) 下水道事業会計繰出金 |

| | | | | | | | |
|------|--|----------------|---------|-----------|-----------|-------|-------|
| 事業目的 | 下水道事業会計の健全な財政運営のため、地方公営企業法第17条の2の規定に基づく国の繰出基準による繰出し等を行う。 | (現年) | | | | | |
| | | 事業費 (単位:千円) | 当初予算 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | 決算 | 998,829 | 1,033,992 | 1,000,372 | | |

| | |
|------|--|
| 事業概要 | 一般会計から下水道事業会計に繰り出す経費として、雨水対策や汚水高度処理など、公費負担をすべき経費に加えて、汚水処理や浄化槽の維持管理費、人件費、下水道建設費、浄化槽設置費の一部について一般会計から繰り出している。 |
|------|--|

■実施(DO)

| | | | | | | | | |
|-------|-----------------------------|---|----|----|---------|-------|-------|-------|
| 成果指標1 | 施策目的のない事業であり、成果指標の設定になじまない。 | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | | | | |
| 成果指標2 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標1 | 繰出金額 | → | 単位 | 予定 | 998,829 | | | |
| 活動指標2 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| 活動指標3 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| 活動指標4 | | → | 単位 | 予定 | | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|--|--|
| 必要性 | 公共性 | A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となることが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある | 地方公営企業法に基づく繰出であり、行政が実施主体である。 |
| | 市民ニーズ | A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない | 内部管理の事務であり、市民ニーズとは関連しない。 |
| 有効性 | 制度設計 | A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある | 地方公営企業法に基づく繰出であり、評価になじまない。 |
| | 達成度 | A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない | 地方公営企業法に基づく繰出であり、評価になじまない。 |
| 公平性 | 受益者負担 | A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない | 地方公営企業法に基づく繰出であり、受益者負担を求めるものではない。 |
| 効率性 | 事業手法 | A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない | 下水道事業会計への繰出財源として、目的税である都市計画税を活用し財源確保を行っているが、活用先について検討の余地はある。 |
| | コスト | A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない | 繰出財源の活用に併せて、コスト削減の余地がある。 |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|--|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| B | 下水道事業担当課との調整を行い、適切な繰出に取り組んでいるが、平成28年度より下水道事業会計が公営企業法の適用を受けており、令和元年度に下水道事業の今後10年間の事業方針を定めた「富田林市下水道事業ビジョン」を策定したことから、その内容を踏まえて、下水道事業における受益者負担と繰出の適正なバランスを図る必要がある。 |
| A 見直し・廃止 | |
| B 継続 | |
| C 充実 | |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月26日 |
| 部署名 | 総務部 財政課 |
| 評価者 | 東 康則 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|-----------|
| 事業番号 | 119101 | 事業名称 | 地方債元金償還事務 |
|------|--------|------|-----------|

| | | |
|------|------------------------------|------------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な行財政運営の推進 | (経営的施策1) 効率的・効果的な行財政運営 |
|------|------------------------------|------------------------|

| | | | |
|------|---------|------|-----------------|
| 予算科目 | (款) 公債費 | 事業種別 | (大事業) 地方債等償還事業 |
| | (項) 公債費 | | (中事業) 地方債等償還事業 |
| | (目) 元金 | | (小事業) 地方債元金償還事務 |

| | | | | | |
|----------------|-----------------------------------|-----------|-----------|-------|-------|
| 事業目的 | 過去に借入を行った個々の市債の償還計画に基づく元金償還事務を行う。 | (現年) | | | |
| | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| 事業費 (単位:千円) | 当初予算 | 2,460,474 | 2,131,267 | | |
| | 決算 | 2,874,220 | | | |

| | |
|------|----------------------|
| 事業概要 | 過去に借入れをした市債の元金を償還する。 |
|------|----------------------|

■実施(DO)

| | | | | | | | | |
|-------|-----------------------------|---|----|----|-----------|-------|-------|-------|
| 成果指標1 | 施策目的のない事業であり、成果指標の設定になじまない。 | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | | | | |
| 成果指標2 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標1 | 償還額実績 | → | 単位 | 予定 | - | - | - | - |
| | | | | 実績 | 2,874,220 | | | |
| 活動指標2 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標3 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標4 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|--|---|
| 必要性 | 公共性 | A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となることが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある | 過去に借入れをした市債の元金を償還する事業であることから、行政が実施主体となる。 |
| | 市民ニーズ | A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない | 過去に借入れをした市債の元金を償還する事業であり、市民ニーズとは関連しない。 |
| 有効性 | 制度設計 | A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある | 過去に借入れをした市債の元金を償還する事業であり、評価になじまない。 |
| | 達成度 | A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない | 過去に借入れをした市債の元金を償還する事業であり、評価になじまない。 |
| 公平性 | 受益者負担 | A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない | 過去に借入れをした市債の元金を償還する事業であり、受益者負担を求めるものではない。 |
| 効率性 | 事業手法 | A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない | 過去に借入れをした市債の元金を償還する事業であり、事業手法の見直し余地はない。 |
| | コスト | A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない | 市債の繰上償還を実施することにより、将来的なコスト削減の余地がある。 |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|---|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| B | 償還予定の元金償還金に対し予算要求を行うとともに、繰上償還を実施するなど将来の負担増に備えた取り組みが必要である。 |
| A 見直し・廃止 | |
| B 継続 | |
| C 充実 | |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月26日 |
| 部署名 | 総務部 財政課 |
| 評価者 | 東 康則 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|------------|
| 事業番号 | 119102 | 事業名称 | 地方債等利子償還事務 |
|------|--------|------|------------|

| | | |
|------|-----------------------------|-----------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な行政運営の推進 | (経営的施策1) 効率的・効果的な行政運営 |
|------|-----------------------------|-----------------------|

| | | | |
|------|---------|------|------------------|
| 予算科目 | (款) 公債費 | 事業種別 | (大事業) 地方債等償還事業 |
| | (項) 公債費 | | (中事業) 地方債等償還事業 |
| | (目) 利子 | | (小事業) 地方債等利子償還事務 |

| | | | | | |
|----------------|------------------------------------|---------|---------|-------|-------|
| 事業目的 | 過去に借入れを行った個々の市債の償還計画に基づく利子償還事務を行う。 | (現年) | | | |
| | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| 事業費 (単位:千円) | 当初予算 | 112,045 | 102,974 | | |
| | 決算 | 111,759 | | | |

| | |
|------|----------------------|
| 事業概要 | 過去に借入れをした市債の利子を償還する。 |
|------|----------------------|

■実施(DO)

| | | | | | | | | |
|-------|-----------------------------|---|----|----|---------|-------|-------|-------|
| 成果指標1 | 施策目的のない事業であり、成果指標の設定になじまない。 | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | | | | |
| 成果指標2 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標1 | 利子償還額 | → | 単位 | 予定 | - | - | - | - |
| | | | | 実績 | 111,759 | | | |
| 活動指標2 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標3 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標4 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|--|---|
| 必要性 | 公共性 | A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となることが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある | 過去に借入れをした市債の利子を償還する事業であることから、行政が実施主体となる。 |
| | 市民ニーズ | A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない | 過去に借入れをした市債の利子を償還する事業であり、市民ニーズとは関連しない。 |
| 有効性 | 制度設計 | A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある | 過去に借入れをした市債の利子を償還する事業であり、評価になじまない。 |
| | 達成度 | A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない | 過去に借入れをした市債の利子を償還する事業であり、評価になじまない。 |
| 公平性 | 受益者負担 | A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない | 過去に借入れをした市債の利子を償還する事業であり、受益者負担を求めるものではない。 |
| 効率性 | 事業手法 | A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない | 過去に借入れをした市債の利子を償還する事業であり、事業手法の見直し余地はない。 |
| | コスト | A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない | 市債の繰上償還を実施することにより、将来的なコスト削減の余地がある。 |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|---|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| B | 償還予定の利子償還金に対し予算要求を行うとともに、繰上償還を実施するなど将来の負担増に備えた取り組みが必要である。 |
| A 見直し・廃止 | |
| B 継続 | |
| C 充実 | |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月26日 |
| 部署名 | 総務部 財政課 |
| 評価者 | 東 康則 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|-----|
| 事業番号 | 129101 | 事業名称 | 予備費 |
|------|--------|------|-----|

| | | |
|------|------------------------------|------------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な行財政運営の推進 | (経営的施策1) 効率的・効果的な行財政運営 |
|------|------------------------------|------------------------|

| | | | |
|------|---------|------|-----------|
| 予算科目 | (款) 予備費 | 事業種別 | (大事業) 予備費 |
| | (項) 予備費 | | (中事業) 予備費 |
| | (目) 予備費 | | (小事業) 予備費 |

| | | | | | |
|----------------|--|--------|--------|-------|-------|
| 事業目的 | 予見しがたい歳出予算の不足に対応するために、地方自治法第217条の規定に基づき、予備費の予算計上を行う。 | (現年) | | | |
| | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| 事業費 (単位:千円) | 当初予算 | 30,000 | 30,000 | | |
| | 決算 | 0 | | | |

| | |
|------|-----------------------|
| 事業概要 | 適切な予備費の予算計上及び執行管理を行う。 |
|------|-----------------------|

■実施(DO)

| | | | | | | | | |
|-------|------------------------------|---|----|----------------|-------|-------|-------|-------|
| 成果指標1 | 施策的目的のない事業であり、成果指標の設定になじまない。 | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | | (令和8年度目標値 →) | | | | |
| 成果指標2 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | | (令和8年度目標値 →) | | | | |
| 活動指標1 | 充用額実績 | → | 単位 | 予定 | - | - | - | - |
| | | | | 実績 | 2,476 | | | |
| 活動指標2 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標3 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標4 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|--|--|
| 必要性 | 公共性 | A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となることが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある | 地方自治法に規定された予見しがたい事態に対応するために必要となる経費であり、行政が実施主体である。 |
| | 市民ニーズ | A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない | 予見しがたい事態に対応するために必要となる経費であり、市民ニーズとは関連しない。 |
| 有効性 | 制度設計 | A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある | 予見しがたい事態に対応するために必要となる経費であり、評価になじまない。 |
| | 達成度 | A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない | 予見しがたい事態に対応するために必要となる経費であり、評価になじまない。 |
| 公平性 | 受益者負担 | A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない | 予見しがたい事態に対応するために必要となる経費であり、受益者負担を求めるものではない。 |
| 効率性 | 事業手法 | A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない | 地方自治法に規定された、予見しがたい事態に対応するために必要となる経費であり、事業手法の見直し余地はない。 |
| | コスト | A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない | 近年の地震や水害などの大規模災害等に係る執行実績を踏まえて、災害復旧費と合わせた必要予算額を検討する余地はある。 |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|---|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| B | 本年度予算額(30,000千円)を基本としつつ、引き続き、補正予算対応との役割分担を明確にし、適正な予備費の執行管理に努めていく。 |
| | A 見直し・廃止 |
| | B 継続 |
| | C 充実 |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月24日 |
| 部署名 | 総務部 課税課 |
| 評価者 | 濱坂 未恵子 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|--------------------|
| 事業番号 | 022164 | 事業名称 | 定額減税補足給付金事業(調整給付分) |
|------|--------|------|--------------------|

| | |
|------|---|
| 施策体系 | (分野別施策2) みんなで支え合う健やかで心豊かな暮らしづくり ▶ (2) 支え合いを育む福祉コミュニティづくり ▶ (個別施策12) 生活の自立に向けた支援 |
|------|---|

| | | | |
|------|-----------|------|--------------------------|
| 予算科目 | (款) 総務費 | 事業種別 | (大事業) 総務費 |
| | (項) 総務管理費 | | (中事業) 総務管理運営事業 |
| | (目) 企画費 | | (小事業) 定額減税補足給付金事業(調整給付分) |

| | | | | | |
|------|---|----------------|-------|-------|-----------|
| 事業目的 | 「デフレ完全脱却のための総合経済対策」における物価高への支援として、今年度実施される「定額減税」の一体措置として、減税可能額が税額を上回る、いわゆる減税しきれないと見込まれる方に差額の給付を行う | (現年) | | | |
| | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | 事業費 (単位:千円) | 当初予算 | 0 | 1,042,628 |
| | | 決算 | 0 | | |

| | |
|------|--|
| 事業概要 | 定額減税対象者で所得税と住民税所得割額の両方もしくはいずれかが課税で、納税義務者及び配偶者を含めた扶養親族に基づき算定される定額減税可能額(所得税は3万円×(本人+扶養親族数)、個人住民税は1万円×(本人+扶養親族数))が、令和6年分推計所得税額又は令和6年度分個人住民税所得割額を上回る方に差額の給付を行う |
|------|--|

■実施(DO)

| | | | | | | | | |
|-------|---|---|----|----------------|-------|-------|-------|-------|
| 成果指標1 | 臨時特例的な給付措置として実施する事業であるため、成果を測ることは適当でない。 | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | | (令和8年度目標値 →) | | | | |
| 成果指標2 | | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | | | | |
| | | | | (令和8年度目標値 →) | | | | |
| 活動指標1 | | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標2 | | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標3 | | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標4 | | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|--|--|
| 必要性 | 公共性 | A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となることが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある | 「デフレ完全脱却のための総合経済対策」(令和5年11月2日閣議決定)による |
| | 市民ニーズ | A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない | 国の施策であるため、市民ニーズの関連性の把握はしていない |
| 有効性 | 制度設計 | A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある | 国による制度設計のため、市では改善できないが、制度が複雑であり、説明に苦慮している現状がある |
| | 達成度 | A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない | 国の施策であり、指標の設定していない |
| 公平性 | 受益者負担 | A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない | 国の施策であり、受益者負担を求められていない |
| 効率性 | 事業手法 | A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない | 国による制度設計のため、市では事業手法等を見直すことはできない |
| | コスト | A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない | 国の施策であり、全額国費での対応予定である |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|----------------------------|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| A | 国の施策であり、原則、令和6年度のみ施策となっている |
| A 見直し・廃止 | |
| B 継続 | |
| C 充実 | |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月24日 |
| 部署名 | 総務部 課税課 |
| 評価者 | 濱坂 未恵子 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|--------|
| 事業番号 | 022201 | 事業名称 | 課税管理事務 |
|------|--------|------|--------|

| | | |
|------|-----------------------------|-----------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な行政運営の推進 | (経営的施策1) 効率的・効果的な行政運営 |
|------|-----------------------------|-----------------------|

| | | | |
|------|-----------|------|----------------|
| 予算科目 | (款) 総務費 | 事業種別 | (大事業) 総務費 |
| | (項) 徴税費 | | (中事業) 市税管理運営事業 |
| | (目) 賦課総務費 | | (小事業) 課税管理事務 |

| | | | | | |
|----------------|-----------------------|--------|--------|-------|-------|
| 事業目的 | 軽自動車税、市たばこ税、入湯税の適正な課税 | (現年) | | | |
| | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| 事業費 (単位:千円) | 当初予算 | 26,570 | 27,222 | | |
| | 決算 | 27,084 | | | |

| | |
|------|--|
| 事業概要 | 軽自動車税、市たばこ税、入湯税の課税に係る事務、市税及び譲与税・各交付金の調定に関する事務、課の庶務に関する事務、税制改正に伴う事務、等 |
|------|--|

■実施(DO)

| | | | | | | | |
|-------|---------------------|---|----|-------|---------|---------|---------|
| 成果指標1 | 軽自動車税決算見込額(滞納繰越分含む) | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | 218,763 | 229,942 | 241,692 |
| 成果指標2 | 市たばこ税・入湯税決算見込額 | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | 577,552 | 572,423 | 567,592 |
| 活動指標1 | 軽自動車税課税台数 | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | 37,000 | 37,000 | 36,900 |
| 活動指標2 | たばこ売渡本数 | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | 81,024 | 87,000 | 85,530 |
| 活動指標3 | 入湯税納税者数 | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | 12,900 | 16,000 | 24,000 |
| 活動指標4 | 設定なし | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|--|--|
| 必要性 | 公共性 | A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となることが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある | 市の自主財源である市税の賦課徴収に係る事務であり、必要性が高い。 |
| | 市民ニーズ | A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない | 市の自主財源である市税の賦課徴収に係る事務であり、市民ニーズとの関連性は低い。 |
| 有効性 | 制度設計 | A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある | 軽自動車税、市たばこ税、入湯税の課税に係る事務、市税及び譲与税・各交付金の調定に関する事務、課の庶務に関する事務、税制改正に伴う事務を執行するに当たり、現状の仕組みで問題ない。 |
| | 達成度 | A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない | 決算見込額が成果指標を上回っており、概ね指標を達成している。 |
| 公平性 | 受益者負担 | A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない | 受益者負担を求める部分がない。 |
| 効率性 | 事業手法 | A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない | 引き続き業務効率化を目指す必要がある。 |
| | コスト | A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない | 市税の賦課に必要な端末の使用料や納税通知書の送付に係る費用が事業費の大半を占めており、最低限の経費となっている。 |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|---|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| B | 行政手続きのデジタル化に対応するため、また、業務の効率化の観点から、業務内容のデジタル化を進める必要があります。軽自動車税課税に関する業務において、RPAの導入により、課税情報の基幹システムへの取り込みにかかる時間が大幅に短縮された実績があることから、今後もRPAによる業務効率化の検討、実施が必要であるといえます。次に、今後導入される全国共通の課税システムへの対応や、軽自動車等の登録情報の電子化への対応が挙げられます。この点についてはデジタル推進室やシステムベンダーと調整しながら進めていく必要があります。 |
| A 見直し・廃止 | |
| B 継続 | |
| C 充実 | |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月24日 |
| 部署名 | 総務部 課税課 |
| 評価者 | 濱坂 未恵子 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|---------|
| 事業番号 | 022202 | 事業名称 | 市民税課税事務 |
|------|--------|------|---------|

| | | |
|------|-----------------------------|-----------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な行政運営の推進 | (経営的施策1) 効率的・効果的な行政運営 |
|------|-----------------------------|-----------------------|

| | | | |
|------|-----------|------|----------------|
| 予算科目 | (款) 総務費 | 事業種別 | (大事業) 総務費 |
| | (項) 徴税費 | | (中事業) 市税管理運営事業 |
| | (目) 賦課総務費 | | (小事業) 市民税課税事務 |

| | | | | | |
|----------------|------------------|--------|--------|-------|-------|
| 事業目的 | 市民税(個人・法人)の適正な課税 | (現年) | | | |
| | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| 事業費 (単位:千円) | 当初予算 | 56,144 | 57,017 | | |
| | 決算 | 53,792 | | | |

| | |
|------|---|
| 事業概要 | 市民税(個人分・法人分)の賦課事務。個人分については確定申告、市申告、給与支払報告書等の課税資料に基づき市民税・府民税・森林環境税額を決定し、納税通知書を送付する。法人分については企業からの申告に基づき賦課決定をする。 |
|------|---|

■実施(DO)

| | | | | | | | | |
|-------|------------------------|---|----|-----------------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 成果指標1 | 市民税(個人分)課税額 ※滞納繰越分含む | → | 単位 | 予定 | 5,702,700 | 5,654,220 | 5,602,200 | 5,547,420 |
| | | | | 実績 | 6,026,826 | | | |
| | | | | 【 千円 】 (令和8年度目標値 → 5,547,420 千円) | | | | |
| 成果指標2 | 市民税(法人分)決算見込額 ※滞納繰越分含む | → | 単位 | 予定 | 617,991 | 617,991 | 617,991 | 617,991 |
| | | | | 実績 | 509,313 | | | |
| | | | | 【 千円 】 (令和8年度目標値 → 617,991 千円) | | | | |
| 活動指標1 | 市民税納税義務者数 | → | 単位 | 予定 | 52,458 | 52,458 | 52,458 | 52,458 |
| | | | | 実績 | 53,267 | | | |
| 活動指標2 | 法人税納税件数 | → | 単位 | 予定 | 2,770 | 2,770 | 2,770 | 2,770 |
| | | | | 実績 | 3,334 | | | |
| 活動指標3 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| 活動指標4 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|--|---------------------------------------|
| 必要性 | 公共性 | A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となることが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある | 市税の賦課徴収に係る事務であり、法令等で規定されている。 |
| | 市民ニーズ | A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない | 市民ニーズとの関連性は低い。 |
| 有効性 | 制度設計 | A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある | 作業スケジュールは確立されているが、作業内容を精査し、改善する余地はある。 |
| | 達成度 | A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない | 決算見込額が成果指標を上回っており、概ね指標を達成している。 |
| 公平性 | 受益者負担 | A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない | 税務関係証明手数料を徴収しており、他に受益者負担を求められる事務はない。 |
| 効率性 | 事業手法 | A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない | 委託内容の精査を行い、効率性を上げる必要がある。 |
| | コスト | A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない | 委託内容の変更によってはコストが増加する可能性がある。 |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|---|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| B | 事業費は、市市民税の課税に必要な印刷製本費、通信運搬費、業務委託料などが主で、特に令和3年度より市民税課税業務の一部を通年委託し、職員の時間外手当が削減されたことから、業務委託は今後も必要と考えています。今後は、委託内容の更なる精査を行い、職員定数の削減による負担を上回る委託効果を生み出していかないとはいけません。具体的には、住民税の申告の受付や、各種書類の入力作業を行ってもらい、職員は管理・点検を確実にを行う体制が望ましいと考えます。また、国主導のDX推進を含め、システム標準化も控えているため、業務のデジタル化が必要とされていますが、RPAなどの知識や技術を習得する時間は現状、捻出できていないため、業務委託を進めることで、時間を捻出し、人員削減をカバーできるような体制を整えていく必要があります。 |
| A 見直し・廃止 | |
| B 継続 | |
| C 充実 | |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月24日 |
| 部署名 | 総務部 課税課 |
| 評価者 | 濱坂 未恵子 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|-----------------|
| 事業番号 | 022203 | 事業名称 | 固定資産税・都市計画税課税事務 |
|------|--------|------|-----------------|

| | | |
|------|-----------------------------|-----------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な行政運営の推進 | (経営的施策1) 効率的・効果的な行政運営 |
|------|-----------------------------|-----------------------|

| | | | |
|------|-----------|------|-----------------------|
| 予算科目 | (款) 総務費 | 事業種別 | (大事業) 総務費 |
| | (項) 徴税費 | | (中事業) 市税管理運営事業 |
| | (目) 賦課総務費 | | (小事業) 固定資産税・都市計画税課税事務 |

| | | | | | |
|----------------|-------------------|--------|--------|-------|-------|
| 事業目的 | 固定資産税・都市計画税の適正な課税 | (現年) | | | |
| | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| 事業費 (単位:千円) | 当初予算 | 26,205 | 22,681 | | |
| | 決算 | 24,582 | | | |

| | |
|------|---|
| 事業概要 | 固定資産税・都市計画税の賦課事務。 土地・家屋・償却資産について、現況調査及び納税者からの申告により、税額を決定し、納税通知書を発送する。 国・府が所有する資産については、固定資産税の代わりにするものとして、交付金を請求する。 |
|------|---|

■実施(DO)

| | | | | | | | |
|-------|-------------------------|---|----|-------|-----------|-----------|-----------|
| 成果指標1 | 固定資産税決算見込額(滞納繰越分・交付金含む) | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | 4,742,623 | 4,602,073 | 4,602,073 |
| 成果指標2 | 都市計画税決算見込額(滞納繰越分含む) | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | 925,451 | 900,812 | 900,812 |
| 活動指標1 | 固定資産税・都市計画税の納税義務者数 | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | 38,500 | 38,500 | 38,500 |
| 活動指標2 | 家屋の新築・増築件数 | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | 330 | 330 | 330 |
| 活動指標3 | 家屋の取壊し件数 | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | 250 | 250 | 250 |
| 活動指標4 | | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|--|--|
| 必要性 | 公共性 | A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となることが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある | 市税の賦課徴収に係る事務であり、法令等で規定されている。 |
| | 市民ニーズ | A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない | 市の自主財源である市税の賦課徴収に係る事務であり、市民ニーズとの関連性は低い。 |
| 有効性 | 制度設計 | A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある | 3年毎に評価替えが行われることから、事務や業務委託についてもそのサイクルを元に行っている。年単位で見ても作業スケジュールは確立されており、効果的な制度設計となっている。 |
| | 達成度 | A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない | 決算見込額が成果指標を上回っており、概ね指標を達成している。 |
| 公平性 | 受益者負担 | A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない | 税務関係証明書発行の際には手数料を徴収しており、他に受益者負担を求められる事務はない |
| 効率性 | 事業手法 | A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない | 課税事務全般のうち一部は委託可能であるが、民間委託が可能な部分については、既に委託している |
| | コスト | A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない | 課税事務全般のうち一部は委託可能であるが、民間委託が可能な部分については、既に委託しており、最低限の必要経費となっている。 |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|---|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| B | 家屋の課税においては、表題登記や現況変更の届出があるものは確実に処理しているが、未登記や未届出の家屋については、毎年撮影している航空写真を元に過去に撮影した写真と最新の写真を比較する差分調査による抽出と、主に土地評価担当者が現地調査を行う中で判明した未課税物件を課税して一定の成果を挙げている。引き続き、公平かつ適正な課税を目指し、効率的に調査を実施して家屋評価を行う必要がある。 償却資産の課税においては、令和3年度から4年度にかけて申告内容の分析調査支援業務等を委託して未課税や未申告の是正に取り組みを行った。委託により調査手法に関する知識を習得し、令和5年度以降は引き続き調査を継続しているが、調査対象事業者の選定については、委託が終了したことともない、市独自で行う必要があるため、これまでどおりの税収増が見込めるかが課題である。 |
| A 見直し・廃止 | |
| B 継続 | |
| C 充実 | |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月25日 |
| 部署名 | 総務部 収納管理課 |
| 評価者 | 松本 万民 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|--------|
| 事業番号 | 022206 | 事業名称 | 市税徴収事務 |
|------|--------|------|--------|

| | | |
|------|-----------------------------|-----------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な行政運営の推進 | (経営的施策1) 効率的・効果的な行政運営 |
|------|-----------------------------|-----------------------|

| | | | |
|------|---------|------|----------------|
| 予算科目 | (款) 総務費 | 事業種別 | (大事業) 総務費 |
| | (項) 徴税費 | | (中事業) 市税管理運営事業 |
| | (目) 徴収費 | | (小事業) 市税徴収事務 |

| | | | | | |
|----------------|--------------------|--------|--------|-------|-------|
| 事業目的 | 市財政運営の根幹を成す市税収入の確保 | (現年) | | | |
| | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| 事業費 (単位:千円) | 当初予算 | 83,254 | 85,795 | | |
| | 決算 | 93,089 | | | |

| | |
|------|---|
| 事業概要 | 目的達成のため納期内納付や滞納整理の推進、また徴収率向上のために納付環境整備の促進も行う。現年対策としては、引き続き滞納防止に向けた取組みを進めていく。滞年については、納期内納付者との不公平感をなくすため延滞金の徴収を行い、厳正な滞納処分の執行により、早期解決に努め、収納率の向上を図っていく。 |
|------|---|

■実施(DO)

| | | | | | | | |
|-------|------------------|---|----|--------|--------|--------|--------|
| 成果指標1 | 市税収入額(百万円) | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 12,785 | 12,577 | 12,532 | 12,485 |
| 成果指標2 | 市税徴収率 | → | 単位 | 97 | 97 | 97 | 97 |
| | | | | 99 | | | |
| 活動指標1 | コールセンターの活用(発信件数) | → | 単位 | 20,000 | 20,000 | 20,000 | 20,000 |
| | | | | 9,980 | | | |
| 活動指標2 | 差押執行件数 | → | 単位 | 700 | 700 | 700 | 700 |
| | | | | 167 | | | |
| 活動指標3 | コンビニ収納取扱件数 | → | 単位 | 70,000 | 70,000 | 70,000 | 70,000 |
| | | | | 56,197 | | | |
| 活動指標4 | モバイルレジ収納取扱件数 | → | 単位 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| | | | | 692 | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 | |
|-----|-------|----|--|--|
| 必要性 | 公共性 | B | A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となることが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある | 租税の賦課徴収は、法的根拠に基づくものであり、市税は市財政運営の根幹をなすことから、事業の必要性は高い。 |
| | 市民ニーズ | A | A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない | 徴収率向上を目的とした、コールセンターを活用した納付勧奨業務や、納税環境整備の一環としてコンビニ、電子マネーによる収納業務は市民ニーズが高い。 |
| 有効性 | 制度設計 | B | A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある | 徴収業務のDX化により、業務の属人化の解消及び職員のリソースの最適化によりコストの削減に繋げることが出来る。 |
| | 達成度 | A | A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない | 収納率が目標値を達成している。 |
| 公平性 | 受益者負担 | D | A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない | 租税の賦課徴収は、法的根拠に基づくものであり、市税は市財政運営の根幹をなすことから、受益者負担を求めるものではない。 |
| 効率性 | 事業手法 | B | A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない | 今後、持続可能な行政運営を行う上で効率の良い徴収環境の構築が課題となっております。その中で徴収業務のDX化は重要であると考えております。 |
| | コスト | A | A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない | 令和6年9月30日で現在契約しているコールセンターとの契約が終了となる。令和6年10月1日より実施するコールセンターの人員配置を1名減をして2名体制で募集する。 |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|--|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| B | 【初期滞納の徹底抑制】滞納初期段階におけるコールセンターからの納付勧奨は、有効策であり、引き続き継続していくが、故意に電話に出ない場合などもあることから、文書による催告も行っていきます。 【滞納整理の促進】交渉記録の入力・調書作成等が、迅速かつ簡易に操作できる滞納整理システムの活用によって、迅速な滞納処分の執行が可能となったことから、システムの活用により今後も徴収率向上を目指していく。 【納付環境整備の促進】コンビニ収納が安定期に入っている中で、スマートフォンで納付できる「モバイルレジ」や「PayPayなどによる電子マネー決済」の利用拡大をすすめていく。 |
| A 見直し・廃止 | |
| B 継続 | |
| C 充実 | |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月25日 |
| 部署名 | 総務部 収納管理課 |
| 評価者 | 松本 万民 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|--------|
| 事業番号 | 022209 | 事業名称 | 債権管理事務 |
|------|--------|------|--------|

| | | |
|------|-----------------------------|-----------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な行政運営の推進 | (経営的施策1) 効率的・効果的な行政運営 |
|------|-----------------------------|-----------------------|

| | | | |
|------|---------|------|----------------|
| 予算科目 | (款) 総務費 | 事業種別 | (大事業) 総務費 |
| | (項) 徴税費 | | (中事業) 市税管理運営事業 |
| | (目) 徴収費 | | (小事業) 債権管理事務 |

| | | | | | | | |
|------|--------------------------------|----------------|-------------|-------|-------|--|--|
| 事業目的 | 適正な債権管理により歳入の確保と市民負担の公平性を確保する。 | (現年) | | | | | |
| | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | | |
| | | 事業費 (単位:千円) | 当初予算 491 | 446 | | | |
| | | | 決算 | 385 | | | |

| | |
|------|--|
| 事業概要 | 各債権の担当者が地方自治法や富田林市債権管理条例に基づき、債権の適正な管理・回収が行えるよう指導・助言を行うとともに、必要に応じて移管を受けた債権の徴収を行う。 |
|------|--|

■実施(DO)

| | | | | | | | |
|-------|--|---|----|-------------------------|-------|-------|-------|
| 成果指標1 | 一般会計および国民健康保険事業、介護保険事業、後期高齢者医療保険事業の未収額 | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | 1,070 | 1,040 | 1,020 |
| | | | | 実績 | 631 | | |
| | | | | (令和8年度目標値 → 1,000 百万円) | | | |
| 成果指標2 | 設定なし | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | | | |
| | | | | 実績 | | | |
| | | | | (令和8年度目標値 →) | | | |
| 活動指標1 | 収納管理課への移管件数 | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | 200 | 150 | 50 |
| | | | | 実績 | 27 | | |
| 活動指標2 | 各課で支払督促の申し立てをした件数(非強制徴収債権および私債) | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | 15 | 15 | 15 |
| | | | | 実績 | 12 | | |
| 活動指標3 | 設定なし | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | | | |
| | | | | 実績 | | | |
| 活動指標4 | 設定なし | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | | | |
| | | | | 実績 | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|----|--|
| 必要性 | 公共性 | B | A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となることが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある 市の債権のうち、私債権については民間の債権回収業者(サービサー)や弁護士に委託することが可能であると考えられるが、委託する債権の内容や条件によっては、受託者に利益が少ないケースや本市にとって費用対効果で無益となるケースが考えられ、慎重に検討する必要がある。 |
| | 市民ニーズ | A | A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない 市民負担の公平性を確保するため、未収債権の回収は積極的に進める必要がある。 |
| 有効性 | 制度設計 | A | A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある 収納管理課所属弁護士の指導・助言により、債権所管課が円滑に法的手続きに着手できている。 |
| | 達成度 | A | A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない 市の未収金額は毎年度予定未収額を下回り、指標を達成している。 |
| 公平性 | 受益者負担 | D | A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない 発生した債権の適正管理のための事務であり、該当しない。 |
| 効率性 | 事業手法 | B | A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない 債権管理業務を弁護士等に委託することで同様の成果を上げることも可能と思われるが、各債権所管課の債権管理に対する意識とスキルが低下する恐れがある。 |
| | コスト | C | A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない 雇用する弁護士の数を減らせばコストは削減できるが、年々相談件数が増えている状況で現実的ではない。 |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|--|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| B | 本市においては、債権の発生から回収、消滅までの管理を債権所管課で行うことが大前提である。未収金額は年々総減傾向にあるが、滞納初期段階において適正に対応していれば早期に整理できていた案件が見受けられるため、定期的に各債権の担当者へヒアリングを実施し、債権管理や滞納処分等の指導・助言をしていく。また、管理職の認識が徴収環境を左右することから、各債権の担当者向けの債権管理研修だけでなく、管理職向けの債権管理研修を実施し、債権を適正に管理・回収する意識付けをする。 |
| A 見直し・廃止 | |
| B 継続 | |
| C 充実 | |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月25日 |
| 部署名 | 総務部 契約検査課 |
| 評価者 | 尾崎 竜也 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|--------|
| 事業番号 | 022176 | 事業名称 | 契約検査事務 |
|------|--------|------|--------|

| | | |
|------|-----------------------------|-----------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な行政運営の推進 | (経営的施策1) 効率的・効果的な行政運営 |
|------|-----------------------------|-----------------------|

| | | | |
|------|-----------|------|----------------|
| 予算科目 | (款) 総務費 | 事業種別 | (大事業) 総務費 |
| | (項) 総務管理費 | | (中事業) 総務管理運営事業 |
| | (目) 一般管理費 | | (小事業) 契約検査事務 |

| | | | | | | |
|------|--|----------------|-------|-------|-------|-------|
| 事業目的 | 建設工事等の電子入札を行う事により、入札契約事務の公平性及び透明性の確保、開札事務の効率化、業者の利便性の向上、入札の参加機会の拡大につながる。また、検査を行う事により、適正な履行の確保及び技術力向上を図る。 | (現年) | | | | |
| | | 事業費 (単位:千円) | 当初予算 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
| | | | 8,471 | 4,278 | | |
| | | | 決算 | 6,578 | | |

| | |
|------|---|
| 事業概要 | 建設工事等の入札及び契約事務、並びに検査業務を実施。入札においては電子入札の占める割合が一番高い。 |
|------|---|

■実施(DO)

| | | | | | | | |
|-------|---|---|----|-------------------------|-------|-------|-------|
| 成果指標1 | 電子入札案件の落札率。落札価格÷予定価格×100(建設工事) (予定数値の設定はなじまない) | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | - | - | - |
| | | | | 実績 | 91 | | |
| | | | | 【 % 】 (令和8年度目標値 → - %) | | | |
| 成果指標2 | 電子入札案件の落札率。落札価格÷予定価格×100(測量建設コンサルタント等業務) (予定数値の設定はなじまない) | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | - | - | - |
| | | | | 実績 | 66 | | |
| | | | | 【 % 】 (令和8年度目標値 → - %) | | | |
| 活動指標1 | 電子入札の実施件数(設計金額130万円以上の建設工事) | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | - | - | - |
| | | | | 実績 | 110 | | |
| 活動指標2 | 電子入札の実施件数(設計金額50万円以上の測量・建設コンサルタント等業務) | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | - | - | - |
| | | | | 実績 | 23 | | |
| 活動指標3 | 契約検査課における検査の実施件数(請負金額250万円以上の建設工事) | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | - | - | - |
| | | | | 実績 | 95 | | |
| 活動指標4 | 契約検査課における検査の実施件数(請負金額250万円以上の測量・建設コンサルタント等業務) | → | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 予定 | - | - | - |
| | | | | 実績 | 19 | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|---|---|
| 必要性 | 公共性 | B A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となることが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある | 入札契約事務を民間に業務委託することは透明性、公正性の確保の観点より難しいと考える。現在、府内の19市において電子入札システムを共同利用している。検査は専門性の高い工事等について、外部検査補助を行い、適正な検査を実施している。 |
| | 市民ニーズ | C A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない | 入札契約事務については、公共工事及び業務の発注者として適正に行うものであり、直接的な市民ニーズとの関連性は低いと考える。 |
| 有効性 | 制度設計 | B A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある | 電子入札システムを利用した入札は条件付一般競争入札を対象とし行っているが、今後は指名競争入札についても対象とし運用の検討を行う。 |
| | 達成度 | A A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない | 電子入札については、導入してから開札事務が効率化され、また導入時以降多くの業者が参加され、一定の競争性が確保されている。 |
| 公平性 | 受益者負担 | D A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない | 直接市民に対して行うサービスという性格を持たない事業であるため、受益者負担という要素がないと考えられる。そのため受益者負担を求めるものではないと考える。 |
| 効率性 | 事業手法 | C A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない | 入札契約事務の公平性、透明性の確保及び検査により適正な履行の確保を図るため必要である。 |
| | コスト | C A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない | 電子入札は府内の19市において共同利用しており、システム運用及び調達に係る費用を構成各市で負担している。 |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|---|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| B | 【電子入札制度】 電子入札制度については、導入してから開札事務が効率化され、また導入時以降多くの業者が参加され、一定の競争性が確保されている。しかしながら、一部の業種等においては、参加業者が少なく入札が不調となること課題である。今後においても入札制度の法改正等、国や大阪府の動向を踏まえ、運用を行っていく。 【検査制度の更なる充実】 建築・土木の技術職員で工事等検査を実施しているが、専門性の高い工事等については、外部検査補助業務委託を行うことにより、適正な検査を実施する。 【電子契約制度】 電子契約制度については、契約手続の業務効率化及び行政DXの推進(オンライン化による非対面・非接触の行政サービスの提供)を図る為、電子契約システムを活用した運用を行っており、令和6年度より電子契約の対象範囲を拡大します。 |
| A 見直し・廃止 | |
| B 継続 | |
| C 充実 | |

令和 6 年度 事業評価シート

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和6年6月25日 |
| 部署名 | 総務部 契約検査課 |
| 評価者 | 尾崎 竜也 |

■対象事業

| | | | |
|------|--------|------|----------|
| 事業番号 | 022177 | 事業名称 | 物品購入契約事務 |
|------|--------|------|----------|

| | | |
|------|-----------------------------|-----------------------|
| 施策体系 | (経営的施策) 将来を見据えた持続可能な行政運営の推進 | (経営的施策1) 効率的・効果的な行政運営 |
|------|-----------------------------|-----------------------|

| | | | |
|------|-----------|------|------------------|
| 予算科目 | (款) 総務費 | 事業種別 | (大事業) 総務費 |
| | (項) 総務管理費 | | (中事業) 総務管理運営事業 |
| | (目) 一般管理費 | | (小事業) 物品購入契約検収事務 |

| | | | | | | | |
|------|---|-------------|-------|-------------|-------------|-------|-------|
| 事業目的 | 市として行う物品等の購入や管理等業務委託等に関する契約事務を担うことにより、各担当課の事務の軽減を図り、また、入札の公平性・公正性を保つ。 | (現年) | | | | | |
| | | 事業費 (単位:千円) | 当初予算 | 令和5年度 1,624 | 令和6年度 1,694 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | 決算 | 1,172 | | | | |

| | |
|------|--|
| 事業概要 | 物品等の購入・売却及び管理等業務委託等の契約に関する業務。各担当課で年間を通して購入する消耗品等についても取りまとめて、単価契約をしている。 |
|------|--|

■実施(DO)

| | | | | | | | | |
|-------|--|---|----|----|-------|-------|-------|-------|
| 成果指標1 | 施策目的のない事業であり、成果指標の設定になじまない。 | → | 単位 | 予定 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
| | | | | 実績 | - | - | - | - |
| 成果指標2 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標1 | 各課の代わりに処理した件数 | → | 単位 | 予定 | - | - | - | - |
| | | | | 実績 | 590 | | | |
| 活動指標2 | 年間単価契約における契約額(発注数が多い再生PPC用紙A4、布ガムテープ、ガバットファイルA4、ティッシュペーパー、ゴミ袋(45L)の合計) | → | 単位 | 予定 | - | - | - | - |
| | | | | 実績 | 4,441 | | | |
| 活動指標3 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |
| 活動指標4 | | → | 単位 | 予定 | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |

■評価(CHECK)

| 項目 | 視点 | 評価 | 評価の理由・根拠 |
|-----|-------|---|--|
| 必要性 | 公共性 | B A 行政が実施主体(直営・委託)となることが法令等で規定 B 行政が実施主体(直営・委託)となることが適当 C 民間が実施する事業に対して補助等が必要 D 民間によりサービスの維持が可能な事業がある | 物品の購入及び役務等の業務委託に係る入札執行にあたっては、プロセスの透明性、執行における公平性を求められるものであるため、民間に委託等を行うのは難しいと考える。 |
| | 市民ニーズ | C A 市民ニーズは高い又は増加している B 市民ニーズは低い又は減少している C 市民ニーズとの関連性は低い又は把握していない | 各課からの要望に基づき物品購入や役務等の業務委託における指名競争入札等の事務を行っているため、直接的な市民ニーズとの関連性は低いと考える。 |
| 有効性 | 制度設計 | B A 効果的な制度設計となっている B より効果的な制度設計とするために改善の余地がある C 効果的な制度設計とはいえない部分がある | 物品の購入や役務等の業務委託の案件についても電子契約を取り入れており、締結実績も徐々にではあるが増えている。引き続き制度の周知に努めるとともに、担当課が契約する業務委託等の案件についても、今年の秋からの導入に向けて準備を進める。 |
| | 達成度 | D A 指標を達成している B 概ね指標を達成している C 指標を達成していない D 指標を設定していない | 本事業自体が「施策目的のない事業」であるため、成果指標等を設定することが困難である。 |
| 公平性 | 受益者負担 | D A 適切な割合が負担されている B 負担割合を増加または減少すべき C 負担を求める余地はあるが、負担されていない D 受益者負担を求めるものではない | 直接市民に対して行うサービスという性格を持たない事業であるため、受益者負担という要素がないと考えられる。そのため受益者負担を求めるものでないと考ええる。 |
| | 事業手法 | C A 事業手法を見直す予定である B 事業手法を見直す余地はある C 事業手法を見直す余地はない | 業者選定については、現状の指名競争入札等の方法が適していると考えられるため。 |
| 効率性 | コスト | C A コスト削減を行う予定である B コスト削減を行う余地はある C コスト削減を行う余地はない | 直接予算を執行して行う性質を持った事業でないため、指名競争入札等の執行に際し、コスト削減を行える余地はないと考える。 |

■改善事項(ACTION)

| | |
|-----------|---|
| 今後の事業の方向性 | 事業の課題に対する改善事項 |
| B | (電子契約の拡大について) 工事・コンサル等の案件で先行実施した電子契約に続き、契約検査課で締結する物品の購入及び役務等業務委託の契約についても電子契約を導入したが、契約に係る手続きなどの簡略化、自治体におけるDXの拡充を図る観点から、各課で締結する契約について電子契約を導入するよう周知を進めていきます。 |
| A 見直し・廃止 | (備品管理システムの運用について) 令和5年1月から本格稼働させた備品管理システムであるが、現行は各課で個別に登録申請を行い、契約検査課の合議を経て会計室の承認を経て登録されるようになってきました。そのため、契約検査課で業者決定した備品の登録だけでなく、担当課で購入した備品についてもシステムへの登録を行うよう通知するなど、より適切な運用に向けて周知を進めていきます。 |
| B 継続 | |
| C 充実 | |